

14.4

996

14. 4-996



1200501209617

主要各國民間航空保護獎勵概況

逋信省航空局編

昭和八年



始



37
14.4

昭和八年十一月

主要各國民間航空保護獎勵概況

遞信省航空局

一本書ハ歐米主要各國ニ於ケル民間航空保護獎勵ニ關
スル事項ヲ輯録シタルモノナリ

一本書ヲ印刷ニ附シタルハ閱覽及執務ノ便宜上筆寫ニ
代ヘタルニ止マリ之ヲ公刊スルノ趣旨ニアラス



遞信省航空局



同局 寄贈本

第一 佛蘭西

一 定期航空ニ關スル保護獎勵……………三

(一) 定期航空保護政策……………三

(二) 定期航空會社ノ概況……………二九

二 私ノ飛行ニ關スル保護獎勵……………三三

(一) 自家用飛行機購買及維持獎勵金支給制度……………三三

(二) 自家用飛行機操縦士免狀受有者ニ對スル獎勵金ノ支給……………三六

(三) 私ノ飛行委員會……………三七

三 航空工業ニ關スル保護獎勵……………三七

(一) 學術研究ニ關スル保護獎勵……………三七

(二) 航空技術員ノ養成……………三七

(三) 製作工業ニ關スル保護獎勵……………三八

四 民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵……………三九

五 其ノ他ノ事項ニ關スル保護獎勵……………四〇

六 民間航空豫算……………四二

第三 獨逸

一 航空全般ノ組織及航空ニ對スル諸方策……………四三

(一) 航空行政機關ノ組織……………四三

(二) 航空關係法規……………四五

(三) 航空ニ對スル諸方策……………四六

(四) 航空豫算……………四七

二 定期航空ニ關スル保護獎勵……………四八

(一) 獨逸「ルフト、ハンザ」會社補助命令書……………四八

(二) 輸送事業ノ概況……………五三

三 航空工業ニ關スル保護獎勵……………五四

四 民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵……………五五

(一) 養成機關ノ監督……………五五

(二) 乘員養成機關……………五五

五 航空科學研究團體……………五八

(一) 「ゲッティンゲン」流體力學研究所……………五八

(二) 伯林「アドレルスホーフ」所在獨逸航空研究所……………五八

| | | |
|-----------------------|---------------|----|
| (三) | 「ロニン、ロジッテン」會社 | 五八 |
| (四) | 伯林航空科學協會 | 五八 |
| 六 航空保安設備 | | |
| (一) | 地上設備 | 五九 |
| (二) | 航空保安業務 | 五九 |
| 第四 北米合衆國 | | |
| 一 定期航空ニ關スル保護獎勵 | | |
| (一) | 商業航空法ニ基ク保護獎勵 | 六三 |
| (二) | 航空郵便法ニ基ク保護獎勵 | 六五 |
| 二 航空工業ニ關スル保護獎勵 | | |
| 三 航空科學研究團體 | | |
| 四 民間航空豫算 | | |
| | | 七四 |

第一 英吉利

一、定期航空ニ關スル保護獎勵

(一) 補助金支給方法

(イ) 航空會社ニ對スル補助金支給方法ノ沿革

英國ニ於テハ一九一九年「ホルト、トマス」航空輸送旅行會社設立セラレ政府ヨリ何等ノ補助ヲ受クルコトナク倫敦―巴里間ノ定期航空事業ヲ經營シタルカ一九二〇年ニ至リ更ニ「ハンドレー、ベイヂ」會社及「インストン、エーアライ」會社設立セラルルニ及ヒ英國航空會社ハ三社ヲ算スルニ至レリ然ルニ是等英國會社ト同一航空線路ヲ經營シツツアリタル佛國航空運送會社ハ政府ヨリ補助金ヲ得テ其ノ運賃ノ五割ヲ値下シタル爲英國會社中斯業ノ先驅者タル「ホルト、トマス」會社ハ解散ノ已ムナキニ至リ他ノ二會社モ亦財政上甚シキ苦境ニ陥リタリ次テ一九二一年ニ入ルヤ佛國會社ハ自國政府ヨリ補助金ノ増額ヲ受ケ更ニ旅客運賃四割ノ値下ヲ斷行シタル爲殘存セル英國二會社モ亦其ノ競争ニ堪エス事業ヲ中止スルニ至レリ

然ルニ英國ノ輿論ハ之ヲ以テ國運ノ消長ニ關スル重大事件トシ政府ノ考慮ヲ促スコト急ナリシニ依リ當時ノ航空大臣「ウインストン、チャーチル」氏ハ直ニ委員會ヲ設ケ事態ヲ調査セシメ補助ノ必要ニシテ已ムヘカラサルモノナルコトヲ明カニシテ前記「ハンドレー、ベイヂ」輸送會社及「インストン、エーアライ」會社ニ對シ臨時補助金ヲ下附スルコトトシ以テ事業ノ復興ヲ可能ナラシメタリ

右臨時補助金ノ支給期間ハ初メ一九二一年三月十九日ヨリ向フ七ヶ月ノ豫定ナリシカ其ノ後英國政府ハ之ヲ翌一九二二年三月末日迄延長シ兩社ニ對シ其ノ營業收入ノ一割ヲ補助シ且倫敦―巴里間ノ一航空毎ニ七十五磅ヲ支給シ更ニ所定期間内ニ於テ生シタル損失ハ之ヲ補償スルコトトセリ於茲兩社ハ辛シテ經營ヲ持續シ得ルニ至レリ

一九二二年三月末日ヲ以テ臨時補助金下付ノ期間滿了シタルカ政府ハ補助金支給繼續ノ緊要ナルヲ認め同年四月一

日ヨリ向フ六ヶ月間ニ亙ル第二期ノ補助ヲ爲スコトニ決定セリ

右補助ノ方法ハ政府ヨリ各會社ニ其ノ總收入ノ二割五分ニ該當スル補助金及旅客一人ニ付三磅、貨物一封度ニ付三片ノ補助金ヲ支給シ一定數ノ飛行機材ヲ無償ニテ交付シ且會社ノ支拂ヒタル保險料ノ五割ヲ補償スルモノナリ

一九二二年十月第二期補助期間満了後モ政府ハ依然トシテ其ノ補助ヲ繼續シ尙國內會社相互間ノ競争ヲ避ケシムル爲各會社ニ經營線路ヲ協定セシメ其ノ後ハ著シキ變更ナク一九二四年三月末日ニ至レリ

英國政府ハ前記數年ニ亙ル航空會社補助ノ經驗ト民間航空補助調査委員會ノ報告ニ基キ國內各會社カ假令協定的ニ航空線路ヲ經營スルト雖之等ニ對シ各別ニ補助金ヲ支給スルヨリモ寧ロ一大會社ヲ設立セシメ之ニ民間航空事業ノ獨占權ヲ與フルト共ニ相當ノ補助金ヲ支給スルヲ得策トスル見地ヲ採リ茲ニ英帝國航空路會社ヲ設立セシムルニ至レリ

英帝國航空路會社ハ一九二四年四月一日當時航空事業ヲ經營シ居タル四會社即チ「ハンドレー、ベイヂ」輸送會社、「インストン、エアライン」會社、「ダイムラア、ハイア」會社及「ブリテイッシュ、マリーン、エア、ナヴィゲーション」會社ヲ合併シ資本金百萬磅ヲ以テ設立セラレタリ

(ロ) 英帝國航空路會社ニ對スル補助金支給方法

英國政府ハ前記ノ如ク一九二四年四月一日當時存續ノ四航空輸送會社ヲ合併シ資本金百萬磅ヲ以テ英帝國航空路會社ヲ設立セシメ而シテ之ニ對シ向フ十ヶ年間ニ亙リ合計百萬磅ノ補助金ヲ支給スルコトトナシタルカ本支給方法ハ一九二九年ノ改正ニ至ル迄繼續セラレタリ其ノ概要ヲ掲クレハ左ノ如シ

(一) 一九二四年以後十ヶ年ニ亙ル政府ノ補助金總額ヲ百萬磅トシ最初四ヶ年ハ各年度十三萬七千磅ヲ次ノ六ヶ年ハ殘額ヲ遞減支給シ第十年度ニ於テ三萬二千磅ヲ支給ス

(二) 會社ハ前記四會社ノ經營線路ヲ承繼シ即チ倫敦―巴里、倫敦―「ブラッセル」、倫敦―「アムステルダム」及「サザンプ

トン」―「チャンヌル・アイランド」ノ四線ニ於テ旅客、貨物及郵便物ノ輸送ヲナスコトヲ要ス

政府ハ又英國及歐洲航空路ヲ經營スル他ノ會社ニ補助金ヲ支給スルコトナシ

(三) 會社ハ政府ヨリ必要ナル飛行場勤務員ノ供給ヲ受クルヲ得且機材ノ補給、修理及維持ノ爲前記補助金ノ外財政的援助ヲ受ク其ノ金額ハ平均一ヶ年二十三萬磅トス

(四) 會社使用ノ飛行機材ニハ英國製品ヲ選ビ從業員トシテハ英國人ノミヲ採用ス

(五) 會社ハ毎年少クトモ百萬哩ノ飛行ヲ遂行スヘキ義務ヲ負フ
本條項ハ後次ノ如ク修正セラレタリ即チ會社ハ毎年少クトモ四億二千五百萬馬力哩ノ飛行ヲ遂行スヘキ義務ヲ負フ

(六) 會社ハ國家危急ノ際其ノ施設ヲ政府ノ用ニ供スヘキ義務ヲ負フ

(七) 會社ハ其ノ利益金ヲ左ノ如ク處分スヘキモノトス

(1) 拂込濟資本金ノ一割ニ相當スル金額ヲ株主ニ配當シ

(2) 若シ殘額アリタルトキハ之ヲ三等分シ政府補助金ノ償還、會社事業ノ發展ノ爲ノ費用及株主ヘノ配當ニ充當ス
英國政府ハ一九二九年三月三十日英國―印度間ノ定期航空開始ニ伴ヒ右ノ補助契約ヲ廢棄シ新ニ有効期間十ヶ年ノ契約ヲ締結シ一九二九年四月一日ヨリ之ヲ實施セリ

右新契約ノ概要左ノ如シ

(一) 一九二九年以後十ヶ年間ニ亙ル政府ノ補助金總額ハ二百五十萬磅ニシテ其ノ各年度ノ割當金額左ノ如シ

| | | |
|--------|-----|-----------|
| 最初ノ二ヶ年 | 各年度 | 三三五、〇〇〇磅 |
| 次ノ四ヶ年 | 各年度 | 三一〇、〇〇〇磅 |
| 第七年度 | | 一二三〇、〇〇〇磅 |

第八年度 一七〇、〇〇〇磅
 第九年度 一二〇、〇〇〇磅
 第十年度 (最終) 七〇、〇〇〇磅

各年度補助金額ハ(一)歐洲線(二)英國—埃及線(三)埃及—印度線ニ對シ一定ノ割合ヲ以テ按分セラレ

(二)政府ハ英國—印度間ノ定期航空ニ使用スル條件ヲ以テ「カルカタ」型水上飛行機二機ヲ讓渡シ其ノ製作費相當額ヲ英國—埃及間線路ノ第一年度補助金ヨリ控除ス

(三)航空郵便増料金ハ郵政長官ト協議ノ上決定セラレルモノナルカ大體英國、埃及、「イラーク」、印度ノ各一區間一「オンス」ニ付三片、英國、「イラーク」若クハ印度間一「オンス」ニ付六片ト定ム

(四)歐洲線ニ付テハ舊契約ニ基キ既ニ五ケ年間補助金ヲ受ケタルカ新契約ニ基キ更ニ今後十ケ年ニ亙リ逐年遞減ノ方法ニ依リ補助金ヲ受ク

(五)新契約ニ依レハ會社ハ歐洲線ニ於テハ從來通り毎日一往復ノ飛行ヲ爲シ一年間ニ之カ最低限四億二千五百萬馬力哩ヲ飛行スヘキ義務及英國—印度線ニ於テハ一九二九年四月一日以降每週一往復ノ飛行ヲ遂行シ尙將來之ヲ每週二往復ニ改ムヘキ義務ヲ負フ

(六)機體ノ改良殊ニ飛行機ノ運轉費用ニ對スル其ノ貨客搭載量ノ比率ヲ増大セシムルコトノ緊要ナルニ鑑ミ航空大臣ノ別段ノ決定ナキ限り毎年前記補助金ノ二割五分以上ノ金額ヲ機材ノ減價償却費ニ充當スルコトヲ要ス

右條件ニ依ルトキハ會社ハ契約期間中ニ於テ現在使用中ノ航空機ノ大部分ヲ新式機ト取換フルコトヲ得又右期間經過後ハ優良機材ノ使用ニ依リ減價償却費ヲ輕減スルコトヲ得ヘク且輸送貨客ノ自然増加ノ趨勢ト相俟ツテ會社ノ收支相償フニ至リ遂ニハ政府ノ補助ヲ必要トセサルニ至ルヘシ

(七)舊契約ニ依レハ拂込資本ニ對スル一割ノ配當ヲナシ尙剩餘アルトキハ補助金ノ償却ノ爲其ノ三分ノ一ヲ政府ニ返

納スルコトヲ要シタルカ新契約ニ依レハ政府ハ會社ヨリ額面一磅ノ利益後受株二萬五千株ヲ受ケ契約期間中ハ各年度利益金中ヨリ普通株ニ對スル一割ノ配當額ヲ控除セル剩餘利益金ノ半額ノ配當ヲ受ケ期間滿了後ハ普通ノ利益配當ヲ受ケ政府ハ之ヲ補助金ノ償還ニ當ツルモノトス

(八)大臣ハ會社取締役二名ヲ指名スルノ權限ヲ有ス

(二)定期航空會社ノ概況

英帝國航空路會社ハ舊契約ニ依レハ補助契約ノ殘期間五ケ年ニ補助金殘額六十萬磅弱ノ支給ヲ受クルニ過キサリシカ新契約ニ依リテ今後十ケ年ニ亙リ補助金總額二百五十萬磅ノ支給ヲ受クルコトナリ極メテ有利ナル條件ヲ得タルヲ以テ會社ハ其ノ使用機材ノ改善ヲ爲シ以テ輸送能率ヲ上ケ左表ニ依リテ明カナルカ如ク歐洲線ニ於テ一九三二年ニハ一、一三五、二九九、一七五馬力哩ヲ飛行シ一九三一年ヲ凌駕スルコト五〇%ニ及ヒ補助契約ニ基キテ要求セラルル最小限度四二五、〇〇〇、〇〇〇馬力哩ヲ遙ニ超ユル飛行成績ヲ擧ケタリ

英帝國航空路會社歐洲線馬力哩統計表

| 年 度 | 馬 力 哩 數 | 年 度 | 馬 力 哩 數 |
|-------------------|-------------|-------|-------------|
| 一九二四年 (四月—十二月) | 三六五、六四、〇〇〇 | 一九二八年 | 七八四、一四二、〇〇〇 |
| 一九二五年 | 四二一、一五五、〇〇〇 | 一九二九年 | 八四〇、七八二、〇〇〇 |
| 一九二六年 | 五四九、一三九、〇〇〇 | 一九三〇年 | 八〇二、八五三、〇〇〇 |
| 一九二七年 | 五四三、五五三、〇〇〇 | 一九三一年 | 七九七、三三九、〇〇〇 |

會社ハ又業務擴張ニ依リ増加スル輸送ノ需要ニ應スルノ目的ヲ以テ一九三一年七月新ニ「ヴィクトリア」街ニ事務所ヲ

開設シタリ此ノ事務所ハ「サザーン、レールウェイ」ノ「ヴィクトリア」驛ニ隣接シ「クロイドン」飛行場トハ道路ニ依リテ連絡シ交通ノ要衝ニ當リ飛行機、汽船、汽車ニテ旅行セントスル者ノ爲ニ共通ノ而モ便利ナル發着所ヲナスモノナリ
會社ハ其ノ創立以來大英帝國各植民地ト其ノ本國ノ首都倫敦トノ連絡ヲ能フ限リ短時日ヲ以テセントスル政府ノ重要ナル交通政策ノ先驅ヲ爲シ英國—印度—濠洲線、英國—埃及—南阿弗利加線ノ長距離航空線路ノ開設及經營ノ任ニ當レリ

(イ)英國—印度—濠洲線

英國—印度間ノ定期航空線路ハ一九二八年五月一日英國政府ト英帝國航空路會社トノ間ニ新ニ締結セラレタル補助契約ニ基キ開設セラレタルモノニシテ一九二九年四月一日以降倫敦—カラチ間ニ於テ毎週一往復ノ定期航空實施セラレ其ノ成績極メテ良好ナリ

而シテ「カラチ」以東「デリー」、「カルカッタ」及「ラングーン」ニ至ル線路ハ印度政府ノ管理經營ニ屬セシメラレ始メ同政府ハ「カラチ」—「デリー」間ニ於テ英帝國航空路會社ヨリ賃借セル航空機ヲ以テ定期航空ヲ實施シタルカ後「デリー」—「飛行俱樂部」ニ代リ郵便物ノミヲ輸送シタリ然ルニ一九三二年ニ至リ印度大陸橫斷航空路會社設立セラレ英帝國航空路會社ト協同シテ九月ニハ「ラングーン」ニ至リタルカ將來更ニ之ヲ「シンガポール」迄延長スル筈ナリ

又本線ノ最終區間タル「シンガポール」—「ポート・ダーヴィン」間モ濠洲側ノ經營ニ於テ近ク開設ヲ見ル豫定ナリ
本線ノ完成ニ關シテハ英帝國各政府ハ深甚ナル關心ヲ持チ英本國政府ハ全線開通ノ曉ニ於テハ

- 第一年度 四〇、〇〇〇磅
- 第二、三年度 三〇、〇〇〇磅
- 第四、五年度 二〇、〇〇〇磅

ノ補助金ヲ支給スル筈ニシテ又印度、海峽植民地及「マレイ」聯邦ノ各政府ハ地上組織ノ建設及維持費ヲ負擔シ濠洲

政府モ亦之ニ劣ラサル援助ヲ與フルコトニ決定シタリ

(ロ)英國—埃及—南阿弗利加線

阿弗利加ニ於ケル英國ノ航空事業ハ從來僅ニ南阿聯邦ノ「ケープ、タウン」—「ヨハネスブルク」線及「ポート、エリザベス」—「ダーバン」線並東阿弗利加ニ於ケル「キスム」—「カルツーム」間ノ空軍ニ依ル不定期航空線路アルノミニ過キサリシカ數年前ヨリ英本國ト南阿弗利加トノ連絡大航空路計畫樹立セララルニ至レリ固ヨリ本線ハ阿弗利加内地ニ於ケル廣茫タル領域ノ開發及植民ノ促進ニ重要ナル關係ヲ有スルノミナラス軍事上將又經濟上重大ナル意義ヲ有スルモノナルカ近來白耳義、佛蘭西各國ノ航空會社カ夫々政府ノ援助ノ下ニ阿弗利加航空線路ノ開拓ヲ計畫シ着々其ノ準備ヲ進メツツアルニ依リ之カ開設ハ英國ニトリ緊要缺ク可カラサルモノタルニ至リタルナリ

英國政府ハ幾多ノ大飛行ノ經驗並實地踏査ニ依リ著陸地等ノ設置ニ關シ完全ナル資料ヲ蒐集シ得タル結果今後倫敦—「ケープ、タウン」間航空輸送事業經營ノ出願アリテ其ノ經營ノ可能性ヲ認メタル時ハ南阿政府ノ贊同ヲ得タル上直ニ之カ許可ヲ與フル旨發表シタリ

茲ニ於テ阿弗利加航空界ニ活躍セル「コーバム、ブラックバイン」會社ハ該阿弗利加縱斷線路ノ試驗飛行ヲ行ヒ之カ經營ヲ企圖シタリシモ英本國政府ヨリノ補助ハ英帝國航空路會社ノ優先權ニ妨ケラレ又該線沿線ノ各英國植民地政府ヨリノ補助ハ本國政府ノ之ニ對スル補助金支給ヲ條件トセルヲ以テ其ノ孰レヨリモ補助金ヲ受クルコトヲ得サリシヲ以テ該企圖モ遂ニ一時頓挫スルノ已ムナキニ至レリ然ルニ一九三〇年ニ至リ該線ト關係最モ深キ南阿聯邦政府ハ本國政府トノ數次ノ交渉ノ結果遂ニ該縱斷航空線路ノ設置經營ニ對シ爾後五ケ年ニ亙リ必要ナル補助金ヲ下付シ且其ノ他ノ協力援助ヲ惜マサル旨發表シ次テ該線沿線ノ「スーダン」、「ケニヤ」、「タンガニカ」、「ウガンダ」、北部「ロデシア」及南部「ロデシア」等ノ諸政府モ亦同シク補助金下付並協力援助ノ保證ヲ與フル旨發表シ他方「コーバム、ブラックバイン」會社ト英帝國航空路會社トノ協定モ結ハレタレハ茲ニ前記諸政府ヲ代表セル航空省及「コーバム、ブラックバ

「イン」會社ヲ代表セル英帝國航空路會社トノ契約案起草セラレ大體ニ於テ關係者ノ承認スル所トナリタリ
一九三一年航空豫算ノ討議ニ際シ航空大臣ノ答辯シタル所ニ依レハ前記諸政府ハ本航空線路ニ對シ夫々次ノ金額ヲ
支給スルコトナレリ

| | | |
|--------------------|------------------|---------------|
| 英本國政府 | 二七〇、〇〇〇磅 | |
| 「スーダン」政府 | 二六、二五〇磅 | |
| 「ウガンダ」政府 | 五二、五〇〇磅 | |
| 「ケニヤ」政府 | 七八、七五〇磅 | |
| 「タンガニカ」政府 | 五二、五〇〇磅 | |
| 北部「ロデシア」政府 | 一〇、〇〇〇磅 | |
| 南部「ロデシア」政府 | 五〇、〇〇〇磅 | |
| 南阿聯邦政府 | 四〇〇、〇〇〇磅 | |
| 尙補助金支給ノ年度割ヲ示セハ左ノ如シ | | |
| (1) 埃及—「ムアンザ」 | 最初ノ三ヶ月 一六〇、〇〇〇磅 | |
| | (2) 埃及—「ケープ、タウン」 | 第一年度 二四〇、〇〇〇磅 |
| | | 第二年度 二二〇、〇〇〇磅 |
| | | 第三年度 一八〇、〇〇〇磅 |
| | | 第四年度 一五〇、〇〇〇磅 |

第五年度

一一〇、〇〇〇磅

斯クシテ本大航空線路モ漸ク實現ノ運トナリ其ノ第一期區間タル埃及「アレキサンドリヤ」ヨリ「ムアンザ」ニ至ル區
間ハ既ニ一九三一年二月下旬ヨリ定期航空輸送ヲ開始セルカ「ケープ、タウン」ニ至ル殘リノ區間モ同年末ノ「クリス
マス」特別郵便飛行ヲ契機トシテ航空輸送開始セラレ遂ニ一九三二年一月二十一日ヲ以テ全線ノ開通ヲ見タリ

(ハ) 大西洋橫斷線

英帝國航空路會社ハ又「アゾーレス」群島及「バミューダ」島ヲ經由スル歐洲—米國間ノ航空線路ヲ他國航空會社ト
ノ共同經營ノ下ニ開設セントシテ之カ可能性ニ就テ目下研究中ナリ「バミューダ」島長官ノ要求ニ基キ代表者一名
同地ニ派遣セラレ適當ナル飛行場敷地選定セラレツツアルカ此ノ飛行場ハ主トシテ「バミューダ」島—北米合衆國
間ノ旅客輸送ノ爲ニ使用セラルル筈ナリ
而シテ此ノ線路ハ英本國ヲ加奈陀ニ連絡スル幹線ニシテ英帝國ニトリテハ極メテ重要ナルモノナルヲ以テ一九三二
年「オッタワ」ニ開催セラレタル英帝國經濟會議ニ於テハ本問題ヲ研究スル爲委員會設置セラレタリ

二、航空工業ニ關スル保護獎勵

(一) 學術研究ニ關スル保護獎勵

- 英國政府ハ次ノ諸機關ヲ設置シ自ラ航空學術研究ニ努ムルト共ニ又民間ニ對シテモ之カ指導獎勵ニ盡瘁シ居レリ
- (イ) 國立航空機研究所
- 國立航空機研究所ハ飛行機模型ノ製作、抗力及飛行機試驗並發動機ノ製作及性能試驗等各種ノ研究實驗ヲ爲シ航空
調査委員會等ト連絡ヲ保チ軍事並民間航空ノ研究ヲ爲ス
- (ロ) 航空省實驗所

航空省實驗所ハ帝國科學工科大学内ニアリテ同大學ニ於ケル一般科目ヲ修了シタル者ヲシテ更ニ一年間航空科ノ專攻ヲ行フニ當リ學科ト共ニ基礎的實驗ヲ爲サシメ希望ニ依リ尙一年乃至二年間實驗ニ携ハルヲ得シメ以テ有爲ノ技師ヲ養成スルコトヲ目的トスルモノナリ

(ハ) 航空調査委員會

航空調査委員會ハ航空大臣ニ隸屬スル諮問機關ニシテ其ノ組織及職務左ノ如シ

組 織

本委員會ハ左ノ委員ヨリ成ル

航空省ヨリ四名、航空機製作業者ヨリ二名、理化學工業調査會ヨリ二名、理化學者ヨリ五名、理科大学ヨリ二名
主ナル職務

(1) 航空機ノ構造、航空科學及工業ニ關スル意見ヲ申進スルコト

(2) 航空大臣ノ指示スル調査及實驗ニ關スル作業ノ企圖及監督ヲ爲スコト

(3) 飛行學校ノ振興ヲ圖ルコト

(4) 科學上ノ研究ノ發表又ハ他ノ調査會ト協力シ國內航空工業ノ發展ヲ助成スルコト

(ニ) 航空研究委員會

本委員會ハ航空省ニ依リ任命セラレタル委員會ニシテ各方面ニ亙ル權威ヲ集メ左ノ如キ小委員會ヲ設ク

(一) 氣體力學 (二) 合金 (三) 發動機 (四) 事故調査 (五) 航空船 (六) 航空輸送 (七) 壓縮風洞 (八) 彈力及歪 (九) 振動 (十) 音波光波等ノ干涉 (十一) 大風洞 (十二) 荷重係數 (十三) 水上飛行機 (十四) 安定 (十五) 風式氣球 (十六) 工業トノ關係 (十七) 國產機及其ノ羽翼

而シテ各小委員會ハ屢々其ノ研究結果ヲ報告發表セリ

(ホ) 國立理化學研究所 (National Physical Laboratory)

本研究所ハ八部ニ分タレ其ノ一ニ航空部ヲ有ス其ノ研究ハ全ク航空省ノ管轄外ニ在リテ直接實用ニ關係ナキ基礎的學理ノ實驗研究ヲ行フヲ以テ其ノ目的トス從ツテ設備トシテハ四箇ノ風洞及一箇ノ實驗用水渠ヲ有スルニ過キス

(ウ) 共同研究部 (Coordinating Research Board)

本研究部ハ一九二〇年ニ設立セラレタルモノニシテ其ノ目的ハ

(一) 政府ノ施設ニ係ル各種研究機關ノ研究科目及其ノ研究ノ結果ヲ相互ニ報告シ以テ研究ノ重複ノ弊ヲ防キ

(二) 差支ナキ限リ諸研究結果ヲ政府外ノ關係者ニ發表シ

(三) 政府諸機關ノ要求ニ依ル特殊研究ノ爲メ必要ナル諸般ノ準備ヲ爲スニ在リ

(ト) 水上機研究所、飛行機及裝備研究所

前者ハ「フレクストウ」、後者ハ「マートルシヤム」ニ在リ共ニ航空省ノ設置スル所ニシテ新ニ設計製作セラレタル水上又ハ陸上飛行機ノ實地試験ヲ行フ

主トシテ軍用機ニ關スルモノナレトモ民間飛行機ニ對シテモ二十五磅ノ試験料ヲ徵收シテ其ノ性能試験ヲ行フ

(二) 製作工業ニ關スル保護獎勵

(イ) 航空機及發動機製作ノ獎勵

英國政府ハ製作工業ノ保護獎勵ノ意味ヲ含メ優良ナル航空機及發動機ノ買上ヲ爲シ居レリ

即チ其ノ必要ト認メタル航空機又ハ發動機ノ用途及性能ニ應シ豫メ研究ヲ重ネタル結果夫々適當ナル會社ニ注文ヲ爲ス

(ロ) 航空船建造ノ獎勵

英國政府ハ大型航空船ニ依ル植民地聯絡ノ計畫ヲ樹立シ之カ爲使用スヘキ航空船R一〇〇號及R一〇一號ヲ建造スルニ當リ民間航空船製作工業ノ保護獎勵ノ一助トシテ前者R一〇〇號ノ建造ヲ航空船保證責任會社ニ請負ハシメ又

其ノ姉妹船R一〇二號ハ之ヲ航空船工廠ニ於テ製作セシメタルトコロ兩航空船ハ何レモ一九二九年中ニ竣工シタリ然ルニR一〇一號ハ訪印飛行ノ途次佛國ニ於テ爆破シ其ノ犠牲者中ニハ英國航空界ノ名士多數アリタルニ依リ一方加奈陀飛行ニ成功シタルR一〇〇號モ遂ニ航空ニ不適ナル状態ノ下ニ「カーディントン」ニ於テ繋留セララルル運命ニ至リタリ

一九三一年ニ至リ英國政府ハ最初R一〇〇號ヲ再ヒ繕裝シ英本國島一周飛行ヲ始トシ數多ノ試験飛行ヲ爲スニトモ決意シタルモ財政上ノ危機ノ爲此ノ消極的計畫スラ之ヲ拋棄スルノ已ムナキニ至リタリ

降テ同年九月「マクドナルド」首相ハ下院ニ於テR一〇〇號ヲ賣却シ「カーディントン」所在航空船工廠ノ人員ヲ減少セシムヘキ旨言明システR一〇〇號ハ遂ニ十一月賣却セラレ年末ニハ既ニ殆ント完全ニ解体セラレタリ

然レトモ航空船工廠自體ハ現在モ尙必要アラハ何時ニテモ再開シ得ル状態ニ維持セラレ外國航空船降着ノ際ニハ之ヲ利用シ得ルモノナリ 又絶エス外國ニ於ケル航空船ノ設計及建造ノ發展ニ着目シテ機會アラハ之ヲ活用スヘク「カーディントン」ノ工場ニハ數多ノ専門家ヲ殘留セシメタリ

(ハ)新式航空機ノ設計、試作ノ獎勵

英國政府ハ軍事上又ハ商業上有效ナル新式航空機ノ設計、試作ヲ獎勵スル方針ノ下ニ從來ヨリ發明家ニ相當ノ賞金ヲ與ヘ又ハ發明權ノ買上ヲ爲シ居レリ

(ニ)航空機展覽會

英國ニハ一九一六年英國航空機製作業者組合(Society of British Aircraft Constructors)設立セラレ航空協會及飛行俱樂部等ト協力シ加盟員ノ共同利益ノ促進ノ爲活動シ來リ現ニ内外ニ於ケル航空機展覽會ニ際シテハ或ハ之ヲ主催シ或ハ之ニ出品シ英國航空機ヲ一般ニ紹介シ以テ其ノ販路ノ擴張ニ努メタリ

而シテ航空省當局ハ其ノ度毎ニ之ニ援助ヲ與フルコトヲ各マサリシカ一九三二年ニモ「ヘンドン」飛行場、希臘ツァ

ピオン「宮殿」等ニ於ケル展覽會ニ對シテ絶大ナル後援ヲ與ヘ英國航空工業ヲ保護スルコトヲ志レサリキ英國製航空機、發動機及部分品ノ輸出統計表ニ依リ政府ノ保護獎勵ノ效果ヲ見レハ左ノ如シ

| 年次 | 機體 | | 發動機 | | 部分品價格 | 總價格 |
|-------|-----|---------|-------|---------|--------|-----------|
| | 數量 | 價格 | 數量 | 價格 | | |
| 一九二四年 | 一八八 | 四三八、七三 | 五八〇 | 四九一、七三 | 三二、八四三 | 一、二〇一、三五〇 |
| 一九二五年 | 一四八 | 三四八、八六 | 四九〇 | 四三八、六八 | 三六、二〇八 | 一、二四五、六三九 |
| 一九二六年 | 一五〇 | 三九一、四七一 | 三六六 | 二九六、四七 | 四三、〇八一 | 一、三二八、六三九 |
| 一九二七年 | 一四〇 | 二〇五、一八三 | 三八〇 | 三九六、一四三 | 四八、三六二 | 一、〇八四、九五五 |
| 一九二八年 | 三五八 | 四五〇、五五二 | 四三三 | 三四八、六〇六 | 五二、五九一 | 一、三三六、八七三 |
| 一九二九年 | 三五五 | 八〇三、五三八 | 一、一四八 | 五〇三、五三八 | 八五、五九一 | 二、一五六、六七 |
| 一九三〇年 | 三三七 | 六〇一、三八一 | 五五三 | 五三九、五四一 | 九〇、九〇八 | 二、〇四九、九二二 |
| 一九三一年 | 三〇四 | 七七一、五八八 | 三六三 | 四一三、四三八 | 六六、九三〇 | 一、八六〇、三九八 |
| 一九三二年 | | | | | | 一、七四一、八三三 |

三、私ノ飛行ニ關スル保護獎勵

(一)牛津及劍橋大學航空隊

牛津、劍橋兩大學航空隊ハ世界最初ノ航空科學研究團體タル王立航空協會(Royal Aeronautical Society)ノ支部トシテ一九二五年大學當局ノ熱烈ナル賛意ヲ得航空省ニ依リ創設セラレタリ

其ノ主タル目的ハ飛行及之ニ關聯セル諸問題ニ對スル眞摯ナル興味ヲ増進シ且職業トシテ航空ニ携ハル者及英國空軍ニ籍ヲ置カムトスル者ノミナラス國家並民間航空ノ發展ニ密接ナル關係ヲ有スヘキ職業ニ就カムトスル者等ニ航空科學研究及實地飛行ノ指導教練ヲ爲スニ在リ

(イ) 設備

航空機、發動機、無線電信機、空中攝影機、航空機用兵器、航空用機器、高度測定裝置等技術的及軍事的方面ニ迄及フ各種ノ研究設備ヲ有シ劍橋大學航空隊ハ更ニ風洞、「タンク」及實驗室ノ設備ヲ有ス而シテ航空隊ノ練習機ハ最新型ノモノニシテ空軍軍人ニヨリ維持管理セララル

(ロ) 教授科目

教授科目ハ理論及實地ノ兩方面ニ亘ル左ノ科目ヨリ成ル
航空術及航空原理、航空機ノ構造及手入、發動機ノ構造、手入及運轉、航空機操縱術
右以外ノ事項ニ關スル教育ハ聽講希望者ニ對シテ行ハレ尙又來朝ノ權威者ノ講演會ヲ開催ス

(ハ) 飛行練習

飛行練習ハ複操縱裝置航空機ニ依リ行ハレ航空機操縱術ノ實地的訓練トシテ野外飛行ヲ行フ有資格者ニ對シテハ單獨飛行許可セララル
會員ハ通常二ヶ年間同隊ニ於テ教授ヲ受クルトキハ單獨操縱ノ正式資格ヲ得尙特別優秀ナルモノハ一ヶ年ニシテ同資格ヲ受クルコトヲ得ヘシ

(ニ) 學位

兩大學ノ航空課程ハ之ヲ學位課程ニ入レス但シ劍橋大學ニ於テハ機械學優等試驗ノ一部又ハ普通工學學位課程ノ一トシテ之ヲ選擇シ得ルコトトセリ

現在兩大學航空隊ノ有スル會員ハ夫々七十五名ニシテ空軍ヨリ派遣セラレタル教官ノ指導ヲ受ケツツアリ尙一九三一年ニハ牛津大學ノ會員中三十三名、劍橋大學ノ會員中四十一名ハ技術證明書ヲ受ケタリ

(二) 輕飛行機俱樂部

英國政府ハ航空思想ノ普及、航空機操縱術ノ教授ヲ目的トシテ設立セラレタル輕飛行機俱樂部ヲ以テ國家有事ノ際空軍ニ編入シ得ヘキ民間操縱士ヲ養成スルノ機關ト見做シ之ニ對シ多額ノ補助金ヲ支給シ且各種ノ援助ヲ與ヘツツアリ右俱樂部ノ組織、之ニ對スル政府ノ補助金支給制度及操縱士養成成績左ノ如シ

(イ) 組織

一九二四年八月航空大臣ハ一定數ノ輕飛行機俱樂部ヲ設立シ之ニ對シ二ヶ年ヲ一期トシテ財政上援助ヲ與フヘキ旨發表シタリ茲ニ所謂輕飛行機俱樂部トハ右決定ニ基キテ設立セラレタルモノヲ指稱ス該決定ニ依レハ俱樂部ハ創立ニ際シ公認輕飛行機購入費トシテ創立補助金ヲ尙二ヶ年間維持費及材料消耗品購入費トシテ補助金ヲ受ケ之ニ對シ俱樂部ハ少クトモ創立補助金ト同額ノ出資ヲ爲スコトヲ要シ且飛行場及其ノ他ノ設備並補助金ニヨル購入品ノ維持管理ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ

輕飛行機俱樂部ハ公認ノ操縱教官及地上機關士ヲ任用スルコトヲ要ス
俱樂部員ハ英國人タルヲ以テ足り其ノ性、年齢、職業其ノ他ニ關シ何等制限無シ

(ロ) 補助金支給制度

- 一九二四年輕飛行機俱樂部創設ノ際定メラレタル補助金支給制度ハ一九二七年次ノ如ク改メラレタリ
- (一) 「A」「B」兩號免狀ノ下付アル毎ニ夫々五十磅ヲ支給ス
- (二) 現會員ニシテ正規ノ免狀ヲ所有スル者ニ對シ十磅尙二十時間ニ達スル迄飛行一時間ニ付三十志ヲ加ヘ支給ス故ニ一會員ニ對スル一ヶ年ノ最高支給額ハ四十磅トナル

(三)各俱樂部ニ支給スル最高年額ハ二千磅トス
 右ノ制度ハ一九三〇年ノ夏迄ノ期限ナリシヲ以テ既ニ廢止セラレタルカ航空省ハ各俱樂部ノ現狀及各俱樂部關係者ノ要望ヲ考慮シ其ノ補助金支給繼續ノ必要ヲ認メ左ノ如キ補助金支給制度ヲ採用シタリ
 本制度ハ次ニ述フル國民飛行營業會社ニ對スルモノト同様ニシテ
 (一)俱樂部員ノ操縦士免狀(自家用又ハ旅客貨物輸送用タルヲ問ハス)ノ交付ヲ受ケ又ハ其ノ更新ヲ受クル毎ニ十磅ヲ支給ス
 (二)補助金總額ハ各飛行機俱樂部及國民飛行營業會社ニ對スルモノヲ合シテ二萬磅トス
 (三)空軍操縦士タル會員ニ對シテハ其ノ現役タルト退役タルトヲ問ハス補助金ヲ支給セス
 然ルニ一九三二年ニ至リ輕飛行機俱樂部諮問委員會ノ提出セル輕飛行機俱樂部財政調查報告書ニ基キ補助金不十分ナリト認メラレ一九三二年四月ヨリ一九三七年三月三十一日迄効力ヲ有スル新制度實施セラルルコトナレリ其ノ概要左ノ如シ
 (一)「A」又ハ「B」免狀ノ下付アル毎ニ二十五磅ヲ支給ス但シ一九二一年以前ニ退役シタル空軍操縦士ニシテ「A」免狀ヲ獲得シタル者ニ對シテハ十磅トス
 (二)俱樂部員ノ「A」又ハ「B」免狀ノ更新ヲ受タル毎ニ十磅ヲ支給スルコト従前ノ如シ
 (三)各俱樂部ニ支給スル最高年額ハ一千二百磅トス但シ最高年額一千五百磅ヲ超エサル限度ニ於テ前記ノ諸金額ノ五〇%ヲ増スコトアルヘシ

(ハ)現況

被補助輕飛行機俱樂部ノ現況(一九三二年末現在)ハ左表ノ如シ (*括弧内ハ一九三二年中ニ新ニ免狀ヲ獲得シタル者ナリ)

| 俱樂部名 | 飛行會員數 | 會員總數 | A免狀受有者數 | B免狀受有者數 |
|--------------------|-------|------|---------|---------|
| 倫敦 | 三八一 | 四〇六 | 一四一(三五) | 六(一) |
| ミッドランド | 二二五 | 二三三 | 六五(二三) | 二 |
| ニューカースル・オン・タイン | 二四二 | 一九三 | 八五(二三) | 三 |
| ラッシュカシ | 二六三 | 二五四 | 八八(二六) | 六 |
| ハンブッシュ | 一九八 | 三二七 | 一三四(二二) | 八(二) |
| プリストル・アンド・ウエセックス | 一四六 | 三三五 | 九三(二三) | 七 |
| ノーフォーク・アンド・ノーウィッチ | 七六 | 二九四 | 二九(四) | 二 |
| スコット・エイッシュ | 一六六 | 四七八 | 六九(二二) | 五 |
| シンク・ポーツ | 一四三 | 一八八 | 一一五(二六) | 一四 |
| リヴァプール・アンド・ディストリクト | 一三五 | 二八五 | 八五(二三) | 二 |
| ノーサンプトンシア | 九七 | 三五〇 | 二三(五) | 一 |
| レスター | 一四九 | 八六八 | 四八(九) | 一 |
| サザン | 四九 | 六五 | 二五(一一) | 一 |
| ハーツ・アンド・エセックス | 二一九 | 三〇八 | 五三(二三) | 三 |
| イースター・カンティン | 七六 | 一三五 | 四三(二六) | 四 |
| 國民飛行營業會社 | | | | |

| ヨ ー ク シ ン ガ ム | ノ ッ テ イ ン ガ ム | ハ ン ウ ォ ー ス | リ ー デ イ ン ダ | ハ ラ ッ ク プ ー ル | ス ト ウ ク | 計 | 計 | 計 | 計 | 計 |
|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------------|------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 一三三 | 一九六 | 七三(一一) | 四五(七) | 三五七(三三) | 四五 | 二〇(二) | 一八(三) | 二九 | 二九 | 二九 |
| 七一 | 九四 | 四 | 二二六 | 一五六 | 五六 | 一一 | 一一 | 四九 | 四九 | 四九 |
| 六七四 | 七五四 | 二五七(三三) | 一五六 | 一五六 | 五六 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 三、一五〇 | 六、四〇〇 | 一、六七五(三〇八) | 六、五七一 | 三、二六九 | 二、二四九 | 一、五二〇 | 一、五二〇 | 三、四三三 | 三、四三三 | 三、四三三 |
| 一九三二年總計 | 一九三一年總計 | 一九三〇年總計 | 一九二九年總計 | 一九二八年總計 | 一九二八年總計 | 一九二八年總計 | 一九二八年總計 | 一九二八年總計 | 一九二八年總計 | 一九二八年總計 |
| 一〇七四 | 一〇八三 | 九九二 | 五〇五 | 四〇四 | 四〇四 | 四〇四 | 四〇四 | 四〇四 | 四〇四 | 四〇四 |

(三) 國民飛行營業會社 (National Flying Services, Ltd.)

國民飛行營業會社ハ一九二九年四月十五日一般ノ私飛行家並各輕飛行機俱樂部員ノ使用ニ供スル目的ヲ以テ全國各地ニ亘リ飛行場ヲ經營シ各種ノ飛行營業ヲ爲シ且自ラ各地ニ飛行俱樂部ヲ設置セムカ爲ニ設立セラレタリ

會社ハ政府トノ補助契約ニ基キ一九三二年七月末迄ニ地方團體ト協力シ二十ヶ所ノ飛行場及八十ヶ所ノ不時著陸場ヲ建設スルノ義務ヲ負ヒ既ニ輕飛行機俱樂部ヲ有スル倫敦(ハンウォース)、「リーヴ」、「ハル」、「リーディング」、「ノッティンガム」及「ブラックプール」ノ六飛行場ヲ開設シタルカ一九三一年ニハ「ストウク・オン・トレント」飛行場ノ經營ヲ開始シタリ而シテ前記「ブラックプール」及「ノッティンガム」ノ飛行場ハ一九三一年中ニ正式ニ市立飛行場トシテ開場セラレ又同年十月ニ「ヨークシア」俱樂部ハ「シャーバイン・イン・エルメット」ヨリ本會社ノ管理ニ屬スル「リーヴ・ブラッドフォード」市立飛行場ニ移轉シタリ

今會社ノ業務成績ニ就イテ見ルニ所有飛行機三十五機ヲ以テ有償飛行時間數ハ一九三一年ノ八、五三二時ニ對シテ一九三二年ハ七、五八四時ニシテ其ノ内譯ハ教授飛行二、七八八時間、「ハイアー」飛行三、二九二時間、「タクシー」飛行六一七時間及遊覽飛行八八七時間ナリ所屬俱樂部會員ノ一九三二年ニ於ケル平均數ハ一、四一七名ニシテ右會員中ニハ一九三二年十二月末現在ニ於テA免狀受有者五六九名、B免狀受有者四二名有リ其ノ中一九三二年中ニA免狀ヲ獲得シタル者七三名、其ノ免狀ノ更新ヲ受ケタル者一六二名アリ

四、民間航空豫算

(一) 一九三二—三三年度英國民間航空豫算

| 項 | 目 | 金 | 額 | 前年度トノ比較 |
|---------------------|---|--------|-----|---------|
| 政府所有民間航空用飛行場維持費及人件費 | | 三三、〇〇〇 | (+) | 1,000 |
| 航空路測量及試験 | | 三三、〇〇〇 | (-) | 9,000 |
| 技術的設備 | | 三三、〇〇〇 | (-) | 9,000 |

| | | | |
|---|----------|-----|--------|
| 工 場 | 三、五〇〇〇 | (+) | 一、〇〇〇 |
| 諸 設 | 二、〇〇〇 | (+) | |
| 民 間 航 空 本 部 入 件 費 | 一、七、八六四 | (+) | 九六四 |
| 氣 象 通 報 設 備 | 一、一、五〇〇 | (+) | 一、〇〇〇 |
| 民 間 航 空 補 助 獎 勵 金 | 五、五二、〇〇〇 | (+) | 三二、〇〇〇 |
| (イ) 英 帝 國 航 空 路 會 社 | 八、五〇〇 | (-) | 六、五〇〇 |
| (ロ) 輕 飛 行 機 俱 樂 部 | 一、五〇〇 | (-) | 三、五〇〇 |
| (ハ) 國 民 飛 行 營 業 會 社 | 六、九五、三六四 | | |
| 英 帝 國 航 空 路 會 社 南 阿 線 補 助 ノ 爲 ノ 諸 植 民 地 政 府 ヲ リ ノ 助 成 金 | 一、六六、〇〇〇 | (+) | 一、〇〇〇 |
| 豫 定 收 入 | 二、六、五〇〇 | (+) | 一、〇〇〇 |
| (イ) 倫 敦 「リム」 等 ノ 民 間 航 空 用 飛 行 場 ヲ リ 生 ズ ル 收 入 | 五〇〇 | | |
| (ロ) 其 他 | 五〇、二、三六四 | | |

(二) 最近五箇年間英國民間航空豫算總額及補助獎勵金額

| 年 度 | 民間航空豫算總額 | 補 助 獎 勵 金 |
|----------|----------|----------------------------------|
| 一九二八—二九年 | 二四六、六〇〇 | 二、三〇、六〇〇 一、六〇、〇〇〇 三六〇、〇〇〇 |
| 一九二九—三〇年 | 四二六、一六〇 | 三、四一、五〇〇 一、八〇、〇〇〇 五〇〇、〇〇〇 |
| 一九三〇—三一年 | 五二五、五〇〇 | 四、〇八、〇〇〇 一、〇〇、〇〇〇 五、〇〇、〇〇〇 |
| 一九三一—三二年 | 六七八、四〇〇 | 五、二〇、〇〇〇 一、五〇、〇〇〇 五、四〇、〇〇〇 |
| 一九三二—三三年 | 六九五、三六四 | 五、五一、〇〇〇 一、八〇、〇〇〇 五、六一、〇〇〇 |

第 二 佛 蘭 西

一、定期航空ニ關スル保護獎勵

(一) 定期航空保護政策

(イ) 歐洲大戰後ノ佛國政府ノ定期航空補助政策

歐洲大戰終熄スルヤ佛國政府ハ戰時中ニ進歩シタル航空技術ヲ平時ニ於テ維持シ且之カ發達ヲ圖ルコト緊要ナリト認メ一九一九年度豫算ニ三千七百萬法ノ民間航空ニ關スル經費ヲ計上シ其ノ中千八百萬法ヲ民間航空補助ノ爲ニ支出シタルカ右民間航空補助金ハ必スシモ定期航空ノミニ之ヲ支給シタルモノニ非ス純然タル私ノ飛行ニ付テモ飛行距離補助金ヲ、不定期航空輸送物ニ付テモ其ノ重量ニ應スル補助金ヲ支給セル外軍用ニ供シ得ヘキ優秀ナル飛行機ニ付テハ其ノ購買價格ノ二割五分ヲ補助スルコトトセリ

右補助金支給ニ關スル條件左ノ如シ

(一) 飛行機及附屬品ハ佛國人ノ所有スルモノタルコト

(二) 事業ノ運用管理モ亦佛國人之ヲ行フモノタルコト

(三) 操縦ニ従事スル操縦士モ亦全部佛國人タルコト

次テ一九二〇年ニ至リ政府ハ一月三十日附ノ大統領令ヲ以テ民間航空ニ關スル主管ヲ陸軍省ヨリ土木省ニ移シ之ト同時ニ新ニ定期航空補助制度ヲ定メタルカ從來ノ制度ト略同様ニシテ只其ノ相違スル所ハ飛行郵便物百瓦以下ニ付八法、之ヲ超ユルコト二十五又ハ其ノ端數毎ニ一法六十參ノ増料金ヲ徴收シ増料金ハ全部之ヲ受命者ニ支給スルコトトセリ

一九二一年度ニ於テハ飛行機購買補助金ヲ飛行機價格ノ五割トシタル外略前年ト同様ナリキ

一九二二年度及一九二三年度ニ於テハ飛行機購買補助金ノ外飛行時間及飛行距離ニ應シテ支給スル補助金及輸送シ

タル旅客及貨物ノ數量ニ應シテ支給スル補助金ヲ設ケタリ

一九二四年ニ至リ又其ノ補助方法ニ改正ヲ加ヘ購買補助金及輸送貨客ノ數量ト飛行距離トニ應シテ支給スル飛行距離補助金ノ二種トシ飛行機ノ速力ハ之ヲ考慮ニ入レサルコトトセリ但シ會社ノ營業上ノ收支計算ニ缺損ヲ生シタル場合ハ當該年度ノ支給補助金ノ五割以內ニ限リ政府ニ於テ之ヲ補償スルコトトシ以テ斯業發達ノ徹底ヲ期セリ

(ロ) 一九二五年度ヨリ一九二八年度迄ノ佛國政府ノ定期航空補助政策

一九二五年度ニ於テハ從來定期航空會社ニ對シ支給シ居タル飛行機購買補助金ヲ廢止シ飛行補助金及割増飛行補助金ヲ支給スルコトトセリ即チ飛行補助金ハ政府、會社間ノ契約ニ定ムル要件ニ從ヒ規定ノ區間ヲ正規ニ飛行シタル場合飛行距離ニ應シ之ヲ支給シ尙政府ノ認ムル補充航空ニ對シテモ亦之ヲ支給セリ而シテ飛行補助金ノ率ハ飛行距離一籽毎ニ有效積載量百籽ニ付之ヲ左ノ如ク定メタリ

最初ノ四百籽ニ對シテ

一、七五法ノK倍

四百籽以上ノ百籽ニ對シテハ

一、二五法ノK倍

右係數Kハ各會社ノ經營線路毎ニ契約ニ於テ之ヲ定メ五十籽ニ滿タサル端數ハ之ヲ切棄テ五十籽以上ハ之ヲ百籽トシテ計算セリ

割増飛行補助金ハ會社ノ政府ニ提出スヘキ營業報告中ニ借越額アル場合飛行補助金ト同一條件ノ下ニ會社ニ之ヲ支給スルモノニシテ其ノ率ハ營業報告ヲ均衡セシムル如ク之ヲ定メタリ然レトモ右割増飛行補助金額ハ飛行補助金額ノ五割ヲ超ユルコトヲ得ス且飛行補助金及割増飛行補助金ノ總額ハ當該航空會社ニ對スル補助金經費總額ヲ超ユルコトヲ得サルモノトセリ

右ノ外佛國政府ハ基礎ノ確定シ良好ナル成績ヲ舉グルニ至レル「エール、ユニオン」會社經營ノ倫敦―巴里間航空線路ニ對シテハ一九二五年度ヨリ從來ノ毎年度契約ニ代フルニ十箇年契約ヲ締結シテ右會社ヲ補助スルコトトセリ而シ

テ其ノ補助金支給方法ハ前記毎年度契約ノ場合ト殆ト同様ナリ

斯テ一九二六年度、一九二七年度及一九二八年度ニ於テハ大體右支給方法ニ基キテ補助金ヲ支給セリ

(ハ) 一九二九年度ヨリ一九三三年五月末日迄ノ佛國政府ノ定期航空補助政策

一九二九年度以降ニ於テハ從來ノ如ク飛行補助金及必要アラハ割増飛行補助金ヲ支給スルモ飛行補助金ノ支給方法ハ飛行籽數ト飛行機ノ有效積載量トニ基クコトナク飛行籽數ト飛行機ノ性能トニ基クコトトセリ

右一籽飛行補助金ハ一ハ發動機ノ總馬力數ニ比例シテ變化シ他ノ一ハ機體ノ性能ニ從ヒ變化スル左ノ二元(原則)ヲ以テ計算セラル

第一元P¹ハ左ノ割合ヲ以テ計算セラル

二百五十馬力迄ニ付テハ

$$P^1 = K \times 0.28 \times \frac{\text{總馬力數(機體ヲ算入セズ)}}{10}$$

二百五十馬力以上八百馬力迄ノ追加ニ付テハ

$$P^1 = K \times 0.15 \times \frac{\text{總馬力數} - 250}{10}$$

八百馬力以上ノ追加ニ付テハ

$$P^1 = K \times 0.10 \times \frac{\text{總馬力數} - 800}{10}$$

Kハ各航空線路ニ付契約ニ於テ之ヲ定ム

第二元P²ハ左ノ通り定メラル

單發動機付陸上飛行機ニ付テハ

$$P^2 = P^1 \times 0.70 \left(\frac{A}{450} - 1 \right)$$

第一種多發動機付陸上飛行機ニ付テハ

$$P^2 = P^1 \times 0.70 \left(\frac{A}{400} - 1 \right)$$

單發動機付水上飛行機ニ付テハ

$$P^2 = P^1 \times 0.70 \left(\frac{A}{300} - 1 \right)$$

第一種多發動機付水上飛行機ニ付テハ

$$P^2 = P^1 \times 0.70 \left(\frac{A}{250} - 1 \right)$$

右算式中ノAハ左式ヲ以テ之ヲ求ム

$$A = \frac{(P^1 - P^m + n25)(V - 50)}{W}$$

P¹ハ飛行機ノ堪航證明書記載ノ全備重量

P^mハ飛行機ノ堪航證明書記載ノ自重

nハ飛行機ノ旅客座席數

Vハ發動機ノ利用回轉數ヲ以テスル地上附近ニ於ケル水平速度

Wハ發動機ノ總公稱馬力數

割増飛行補助金ハ從來ノ如ク共通指令書ニ定ムル會社ノ政府ニ提出スヘキ營業報告中ニ借越額アル場合飛行補助金ト同一條件ノ下ニ會社ニ之ヲ支給スルモノニシテ其ノ率ハ營業報告ヲ均衡セシムル如ク之ヲ定ム然レトモ其ノ割増飛行補助金額ハ飛行補助金額ノ五割ヲ超過スルコトヲ得ス又飛行補助金及割増飛行補助金ノ總額ハ當該航空會社ニ對スル豫算ニ定ムル補助金經費總額ヲ超ユルコトヲ得サルモノトセリ

(二) 一九三三年六月一日以降ノ佛國政府ノ定期航空補助政策

佛國政府ハ數年來定期航空會社ノ合併ヲ考慮シ英、獨ニ見ルカ如キ強力ナル單一會社ニ統一シ以テ其ノ補助政策ニ將又國際航空線路ノ開設ニ明確ナル統制ヲ與ヘント欲シツツアリシカ一九三一年三月航空郵便會社一般經濟界ノ不況ノ影響ヲ受ケ破産ニ瀕スルニ及ヒ益々之カ急務ナルヲ認メ遂ニ一九三二年十二月十一日定期航空事業ニ適用スル商業航空法ヲ制定スルニ至レリ本法ノ要點ハ補助命令ノ最大期限ヲ十五箇年トスルコト、國家ハ會社ノ資本ニ參加シ其ノ總株式ノ二割五分ニ當ル利益ノ享有ヲ受クルコト且又一般ノ株式ニ應募スルコトヲ得ルコト、國家ハ取締役會又ハ支配人會ニ代表者ヲ出スコト、株式ハ記名式トシ其ノ移轉ニハ航空大臣ノ認可ヲ受クルコト、會社ノ社債又ハ手形發行ニ依ル借入金ハ政府ノ認可ヲ要シ會社資本金ノ三倍ヲ限度トスルコト等ナリ

斯クテ一九三三年四月二十五日ニハ右商業航空法ノ施行規則トモ稱スヘキ共通指令書ヲ制定シ同年五月三十一日既存各航空會社及單一航空會社ノ成立ヲ前提トシテ假ニ創立セラレタル中央航空輸送會社トノ間ニ補助契約締結セラルルニ至レリ斯クテ新ニ「エール、フランス」會社資本金一億二千萬法ヲ以テ創立セラレ同年十月七日「ル、ブルジ」飛行場ニ於テ航空大臣「ビエール、コット」氏等列席ノ下ニ盛大ナル開航式舉ケラレタリ

右補助契約ニ依レハ從來前記ノ如キ複雑ナル方法ニ依リテ支給セラレタル補助金ハ何レモ飛行料補助金ノミトナリ極テ單純化セラレ各航空線路別ニ其ノ最高年額定メラレ又各年度ノ補助金總額ノ最高額決定セラル即チ航空線路別補助金ハ左ノ如シ

| 航 空 線 路 | 一 軒 當 り 補 助 金 | 每 年 ノ 最 高 額 |
|---------|---------------|-------------------------|
| A 線 | ツールーズ カザブランカ | 11,000 ^法 |
| Aノ二線 | マルセイユ バルセロナ | 11,000 |
| B 線 | カザブランカ ダカール | 14,000 |
| C 線 | マルセイユ アルジェール | 11,000 |
| | | 14,900,000 ^法 |
| | | 11,100,000 |
| | | 37,900,000 |
| | | 7,000,000 |

| | | | |
|------|-------------------|--------|------------|
| D線 | 巴里 ブカレスト | 1400 | 16,300,000 |
| E線 | ブライグ ワルソ | 10,500 | 1,800,000 |
| F線 | ブカレスト イスタンブール | 10,500 | 6,000,000 |
| G線 | ベルグラード ソフィア | 15,000 | 8,000,000 |
| Gノ二線 | ソフィア サラニカ | 15,000 | 4,000,000 |
| H線 | 巴里 バーゼル | 10,500 | 7,000,000 |
| I線 | 巴里 アムステルダム | 10,000 | 3,600,000 |
| J線 | 巴里 伯林(ケルン經由) | 10,000 | 2,900,000 |
| K線 | 巴里 伯林(フランクフルト經由) | 10,000 | 1,400,000 |
| L線 | ブラッセル マルメ | 10,000 | 1,100,000 |
| M線 | マルセイユ 西貢 | 28,000 | 3,900,000 |
| N線 | 巴里 倫敦 | 7,500 | 6,100,000 |
| O線 | 巴里 マルセイユ | 8,000 | 4,600,000 |
| Oノ二線 | 里昂 カンヌ | 8,000 | 1,700,000 |
| Oノ三線 | 里昂 ジュネーヴ | 8,000 | 6,000,000 |
| P線 | マルセイユ チニス | 15,000 | 10,900,000 |

而シテ右補助金總計ノ年別最高額ハ左ノ如シ
一九三三年六月一日以降同年末迄 九四,五〇〇,〇〇〇^註
一九三四年 一五,〇〇〇,〇〇〇

| | |
|-----------|-------------|
| 一九三五年 | 一四五,〇〇〇,〇〇〇 |
| 一九三六年 | 一四〇,〇〇〇,〇〇〇 |
| 一九三七年以降毎年 | 一三五,〇〇〇,〇〇〇 |

而シテ會社ハ一九三六年一月一日以降一九三四年ノ旅客、貨物及郵便物收入ヲ基礎トシテ各年ノ右收入超過額ノ半ヲ政府ニ拂戻スコトヲ要ス

(ホ) 航空輸送最高諮問會

佛國政府ハ航空輸送ノ發展ニ鑑ミ將來起リ得ヘキ各種問題ノ審議機關トシテ一九三〇年五月政府委員、兩院議員、航空製作業者、定期航空輸送業者ヨリ組織セラルル諮問會ヲ設立セリ
本諮問會ハ航空大臣ニ隸屬シ航空ニ關スル一切ノ法規ノ草案並航空ニ關スル全般的組織及財政制度ニ關スル諸問題ヲ審議ス而シテ尙本諮問會ノ下ニ航空輸送技術評議會及航空輸送監理評議會アリテ各々其ノ事務ヲ分擔ス
航空輸送技術評議會ハ航空大臣又ハ航空輸送最高諮問會ノ提出ニ係ル航空輸送ニ關スル技術上ノ諸問題ヲ審議ス即チ運輸ニ關スル全般的組織方法、會社ノ規程、工事、諸手當、乗員ノ退職及救済ニ關スル規定、飛行機材ノ配置及其ノ承認等ニ關スル事項ヲ掌理ス
航空輸送監理評議會ハ航空大臣又ハ航空輸送最高諮問會ノ提出ニ係ル航空輸送ニ關スル商業上ノ諸問題ヲ審議ス即チ航空會社ノ申請セル時間表及料金ノ承認、航空會社間又ハ航空會社、航空官憲間ノ問題、航空郵便ノ發達ニ關スル事項、國內會社ト外國航空會社間ノ營業上ノ協定等ヲ審議ス

(二) 定期航空會社ノ概況

一九三三年十月單一會社タル「エール、フランス」會社創立セラルル迄佛蘭西ニ於テ定期航空事業ヲ經營セル主ナル航空會社五アリ其ノ概況ヲ述フレハ左ノ如シ

(イ)「エール・ド・エオン」會社(Compagnie Air-Union)

佛蘭西最初ノ航空會社ハ世界大戰直後飛行機製作業者「ルイ、ブレーゲ」氏ノ創設セル航空運送會社(Compagnie des Messageries Aériennes)ニシテ同社ハ初メ英國ノ「ハンドレー、ペーヂ」會社ト提携シテ倫敦―巴里間ノ旅客運送ヲ營ミタリシカ佛國政府ヨリ補助金ヲ支給セララルニ及ヒ英國ノ右會社ト分離セリ次テ一九二〇年ニハ大航空運送會社(Compagnie des Grands Express Aériens)創設セラレ同會社ハ前記航空運送會社ト同一航空線路ヲ經營シ互ニ競争ヲ爲シタルモ一九二三年ニ至リ兩會社ハ合併シテ「エール、ユニオン」會社ノ名稱ノ下ニ四百七十萬法ノ資本金ヲ以テ同航空線路ヲ經營シ其ノ後設立セラレタル英帝國航空路會社ト其ノ雄ヲ競ヒ尙一九二六年五月ニハ巴里―里昂―「マルセイユ」ノ航空線路ヲ開設シテ其ノ俊翔ヲ地中海ニ伸ヘ又同時ニ里昂ヨリ瑞西ノ「ジュネーヴ」ニ至ル支線ヲ開設シ七月ニハ從來「アンチーブ」―「アジャクシオ」間ノ航空線路ヲ經營シ居タル水上航空會社(Compagnie Aéro-Navale)ヲ併合シ資本金ヲ六百二十萬法ニ増額シ「アンチーブ」―「アジャクシオ」間ノ航空ヲ其ノ手ニ收メ一九二六年十一月ニハ此ノ線路ヲ「アジャクシオ」ヨリ佛領北部阿弗利加ノ「チュニス」迄延長シ一九二九年四月ニハ此ノ線路ノ起點タル「アンチーブ」ヲ「マルセイユ」ニ移シ愈々北ハ倫敦ヨリ南ハ「チュニス」ニ至ル南北縱貫航空線路ヲ完成シ又同時ニ巴里―倫敦間ノ夜間定期航空ヲ開始セリ又一九三〇年ニハ千四百萬法ニ資本金ヲ増額シ「巴里―里昂―「マルセイユ」線ノ夜間航空設備ヲ完備シ一九三一年ニハ大西洋就航汽船ニ聯絡シテ無補助線路タル「巴里―「シユルブル」線及「巴里―「ル、アーブル」線ヲ開設シテ遊覽客ニ便宜ヲ供シ一九三二年ニハ「巴里ヨリ「ジュネーヴ」及「ローザンヌ」ニ至ル線ヲ開設シ一九三三年之ヲ「バルン」迄延長シ又同年「マルセイユ」―「バルセロナ」線ヲ開設セリ

(ロ)空中輸送會社(Société Générale de Transports Aériens)

本會社ハ一九二〇年ノ創設ニ係リ現在一千萬法ノ資本金ヲ有ス其ノ創設當初ヨリ「巴里―「ブラッセル」―「アムステルダム」ノ航空線路ヲ經營シ和蘭ノK、L、M航空會社ト輸贏ヲ争ヒツツアリシカ一九二六年五月「巴里―伯林線」ヲ開設シ爾來漸次其ノ翼ヲ中歐ニ延ヘ「ブラッセル」―「アントワープ」―「ロツテルダム」―「アムステルダム」線、「ブラッセル」―「オステンド」線等ノ支線ノ外「巴里―「ケルン」―「ドルトムント」―「ハンブルヒ」―「コペンハーゲン」―「マルメ」線ヲ開設シ白耳義、和蘭、獨逸及「スカンデナヴィア」地方ニ大ニ其ノ驥足ヲ伸ヘタリ

(ハ)國際航空會社(Compagnie Internationale de Navigation Aérienne)

本會社ハ一九二〇年ノ創設ニ係リ一九二四年十二月迄ハ佛羅航空會社(Compagnie Franco-Romaine)ト稱シ最初「巴里―「ストラスブル」―「ブラーグ」間ノ航空線路ヲ經營シタルカ爾來漸次其ノ航空線路ヲ延長シテ「巴里―「スタンブール」間、「ブラーグ」―「ワルソト」間ノ航空線路ヲ經營スルニ至レリ而シテ一九二五年ニハ獨逸版圖上ノ飛行ヲ禁止セラレ種々經營上困難ニ遭遇シタルモ一九二六年五月二十六日佛獨航空協定ノ締結ヲ見ルニ及ヒ再ヒ獨逸國版圖上ノ飛行ヲ許可セラレ現在ニ於テハ「ミュンベルヒ」及「ブレスラウ」ニ着陸シ居レリ

本會社ハ佛國ニ於ケル他ノ航空會社ト異リ數多ノ國ノ版圖上ヲ通過スル線路ヲ經營シ居ル關係上被飛行國ト長期間ノ契約ヲ結ヒテ各國政府ヨリ補助金其ノ他ノ特權ヲ賦與セラレ居レリ

本會社ハ八百二十五萬法ノ資本金ヲ擁シ其ノ中六割一分ハ佛國側、一割九分ハ「ルーマニア」國側、二割ハ「チェッコスロヴァキア」國側ノ出資ニ係ル

(ニ)航空郵便會社(Compagnie Générale Aeropostale)

本會社ハ元航空興業會社(Compagnie Générale d'Entreprises Aéronautiques)ト稱シ一九一八年ノ創設ニ係ル一九一九年「ツールーズ」―「ラバ」間ノ航空線路ヲ開設シテ以來漸次其ノ航空線路ヲ延長シ一九二五年ニハ其ノ線路ヲ「ラバ」ヨリ「ダカール」迄延長シ主トシテ佛領北部阿弗利加―佛本國間ノ郵便物ノ輸送ヲ爲シタルカ一九二八年二月現在ノ航空郵便會社ト其ノ社名ヲ改稱シ數年來研究ヲ重ネ居タル佛本國―南米間ノ郵便物輸送航空線路ヲ開設スルニ至レリ此ノ線路ハ「ダカール」ヨリ南大西洋ヲ橫斷シテ「アルゼンチン」國ノ「ブエノス、アイレス」ニ至ルモノニシテ

安全ニ大西洋ヲ飛過スルコトヲ得ル優秀ナル飛行機ノ出現スル迄「ナタール」「ダカール」間三、四六〇軒ノ區間ハ高速汽船ヲ以テ中繼セリ又同年十月ニハ「マルセイユ」「アルジェール」間ノ郵便物輸送線路ヲ開設シ一九二九年ニハ南米線ヲ智利ノ「サンチャゴ」迄延長セリ

本會社資本金ハ創立當時五百萬法ナリシカ事業擴張ニ伴ヒ漸次之ヲ増資シテ現在ハ四千五百萬法ヲ有スルニ至レリ然ルニ一九三〇年末ヨリ經濟界ノ不況ノ爲事業用資金ノ調達不可能トナリタリ依テ政府ハ直ニ本會社救済策ヲ樹テ一九三二年度補助金八千六百萬法ノ五分ノ一即チ千七百二十萬法ノ前貸ヲ爲シ且會社ノ爲六百萬法迄ノ保證ヲ爲セリ

(ホ)「エール、オリアン」會社(Compagnie Air-Orient)

本會社ハ一九二七年ノ創設ニ係リ「マルセイユ」「バグダッド」間ノ定期航空ヲ開始シタル「エール、ユニオン、リニ、ドリアン」會社ト極東方面ニ於テ定期航空開設ノ爲着々準備ヲ爲シ居タル「エール、アジ」會社トノ合併ノ結果二千二百四十萬法ノ資本金ヲ以テ設立セラレタル會社ニシテ一九三一年一月下旬「マルセイユ」「西貢間」歐亞聯絡大幹線ヲ開設セリ

會社別支給補助金額

| 會社名 | 年 度 | 一九二四年 | 一九二五年 | 一九二六年 | 一九二七年 | 一九二八年 | 一九二九年 | 一九三〇年 |
|--------------------------------|-----|------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| エール、ユニオン會社 (資本金一四、〇〇〇、〇〇〇法) | | 八、〇〇〇、〇〇〇法 | 八、五〇〇、〇〇〇法 | 九、五〇〇、〇〇〇法 | 一七、五〇〇、〇〇〇法 | 一四、九〇〇、〇〇〇法 | 三〇、〇〇〇、〇〇〇法 | 二七、〇四三、〇〇〇法 |
| 空中輸送會社 (資本金一〇、〇〇〇、〇〇〇法) | | 一、一〇〇、〇〇〇 | 二、六〇〇、〇〇〇 | 四、三〇〇、〇〇〇 | 八、四〇〇、〇〇〇 | 八、四〇〇、〇〇〇 | 一四、五〇〇、〇〇〇 | 一三、四一三、〇〇〇 |
| 國際航空會社 (資本金八、二五〇、〇〇〇法) | | 一三、五〇〇、〇〇〇 | 一五、一五〇、〇〇〇 | 一八、六五〇、〇〇〇 | 二〇、〇〇〇、〇〇〇 | 三三、五〇〇、〇〇〇 | 三四、一五〇、〇〇〇 | 三六、七九五、〇〇〇 |

| | | | | | | | |
|-------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 航空郵便會社 (資本金四五〇、〇〇〇法) | 一七、三三三、〇〇〇 | 二二、二一〇、〇〇〇 | 二二、五〇〇、〇〇〇 | 二五、二五〇、〇〇〇 | 二九、一〇〇、〇〇〇 | 七九、一〇〇、〇〇〇 | 八六、三五五、〇〇〇 |
| エール、オリアン會社 (資本金三、四〇〇、〇〇〇法) | | | | | 七、五〇〇、〇〇〇 | 一三、九〇〇、〇〇〇 | 一八、三三〇、〇〇〇 |

備考

一九三二年度以降ニ於ケル會社別支給金額ハ不明ナルモ政府ニ於テ豫算ニ計上シタル總額ハ一九三二年度ニ於テ一九六、〇〇〇、〇〇〇法、一九三二年度ニ於テ一五六、〇〇〇、〇〇〇法及一九三三年度ニ於テ一八二、〇〇〇、〇〇〇法ナリ

二、私ノ飛行ニ關スル保護獎勵

(一) 自家用飛行機購買及維持獎勵金支給制度

政府ハ英米ニ於ケル私ノ飛行ノ發達ニ鑑ミ比較的發展ノ遅々タル私ノ飛行ヲ保護スル爲一九三〇年四月省令ヲ以テ自家用飛行機購買及維持獎勵金支給方法ヲ定メ直接ニハ私ノ飛行界ノ發展ヲ促進シ又間接ニハ製作工業ノ發達ニ寄與スルコトトセリ

而シテ自家用飛行機購買及維持獎勵金ハ六箇年以内ノ標準型式飛行機ニシテ佛國人又ハ佛國ノ俱樂部ニ依リテ佛國製業者ヨリ直接購入セラレタル飛行機ニ對シ之ヲ支給ス

(イ) 購買獎勵金支給方法

被補助飛行機ハ一九三〇年一月一日以後ノ製作ニ係リ専ラ個人的ニ使用セラルルモノタルコトヲ要シ獎勵金ハ基本補助金、有効搭載量補助金及馬力補助金ヨリ成ル

基本補助金ハ飛行機型式ノ何タルヲ問ハス八千法トス

有效搭載補助金ハ操縦者席以外ノ搭乗者席ヲ有スルモノニ支給セラルルモノニシテ其ノ第一搭乗者席ニ對シテハ一萬法、第二搭乗者席ニハ一萬二千法、第三搭乗者席ニハ又一萬二千法ヲ支給ス

馬力補助金ハ裝備内國製發動機ノ馬力數ニ應シ支給セラルルモノニシテ四〇馬力以下及一〇〇馬力以上ノ部分ニ對シテハ補助金ヲ支給セス而シテ四〇馬力以上六〇馬力迄ノ部分ニ對シテハ一馬力ニ付百法又六〇馬力以上一〇〇馬力迄ノ部分ニ對シテハ一馬力ニ付二百法ヲ支給ス以上ノ規定ニ依レハ操縦士ト共ニ四人乗百馬力以上ノ發動機ヲ裝置セル飛行機ハ購買獎勵金トシテ五萬二千法ヲ支給セラルル計算トナル

尙右ノ根本的三補助金ノ外ニ追加補助金アリテ飛行機ノ安全ニ關スル特殊ノ設備ヲ有スルモノニ對シニ座席機ニハ八千法、三座席機ニハ九千法ヲ限度トシ又金屬製飛行機ニハ六千法ヲ限度トシテ支給セラル

依テ新ニ飛行機ヲ購入シタル際政府ヨリ受クル主ナル飛行機ニ關スル購買獎勵金ヲ表示セハ左ノ如シ

| 飛行機 | 購入價格 | 補助金 | | | | 補助金合計 |
|----------|------------------|--------|---------|--------|---------|---------|
| | | 基本補助金 | 搭載補助金 | 馬力補助金 | 安全設備補助金 | |
| ボ テニ六 | 九五馬力 六〇,〇〇〇法 | 八,〇〇〇法 | 一〇,〇〇〇法 | 九,〇〇〇法 | 一八,〇〇〇法 | 二八,〇〇〇法 |
| コードロン二二三 | 九五馬力 七四,〇〇〇 | 八,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | 九,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | 二八,〇〇〇 |
| コードロン一九三 | 九五馬力 七六,〇〇〇 | 八,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | 九,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | 二八,〇〇〇 |
| ファルマン二〇〇 | 一二〇馬力 一〇五,〇〇〇 | 八,〇〇〇 | 三,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | 四,〇〇〇 |
| ファルマン一九〇 | 一二〇馬力 一〇一,〇〇〇 | 八,〇〇〇 | 四,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇 |
| ファルマン二二〇 | 一四〇馬力 四五,〇〇〇 | | | | | 八,〇〇〇 |
| ファルマン二二二 | 一四五馬力 六三,〇〇〇 | | | | | 六,〇〇〇 |

| 飛行機 | 購入價格 | 基本補助金 | 搭載補助金 | 馬力補助金 | 安全設備補助金 | 補助金合計 |
|----------|------------------|-------|--------|-------|---------|--------|
| モーラン | 九五馬力 九五,〇〇〇 | 八,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 | — | 四,〇〇〇 | 二二,〇〇〇 |
| シュレック二二〇 | 一二〇馬力 一五〇,〇〇〇 | | | | | 五〇,〇〇〇 |

然レトモ其ノ後前記一九三〇年ノ省令ハ一九三二年六月及一九三二年十二月ノ兩省令ニ依リテ改正セラレ有效搭載量補助金ノ第一、第二、第三搭乗者席ニ支給スル補助金ハ各々一萬法ニ減額セラレ又安全ニ關スル裝備トシテ一個ノ「パラシュート」ニ付千法、二個ニ付二千法、三個ニ付三千法ト定メラレタリ

(ロ)維持獎勵金支給方法

此ノ獎勵金ノ被補助飛行機ハ一九二九年六月三十日以降ノ製作ニ係リ専ラ個人的ニ使用セラルルモノニシテ此ノ獎勵金ハ飛行機ノ飛行時間ニ應シテ百時間以上ノモノニ對シ左ノ如ク支給セラレタリ

- 一〇〇時間ヨリ一五〇時間迄ハ 一時間ニ付 六十五法
- 一五〇時間ヨリ二〇〇時間迄ハ 一時間ニ付 八十五法
- 二〇〇時間ヨリ二五〇時間迄ハ 一時間ニ付 百三十五法
- 二五〇時間以上 一時間ニ付 百六十法

然レトモ其ノ後前記一九三〇年ノ省令ハ一九三二年六月及一九三二年十二月ノ兩省令ニ依リテ改正セラレ一九三三年以降ハ八千法以上ヲ飛行シタル飛行機ニノミ此ノ維持獎勵金ヲ支給スルコトトシ二十軒以上ノ直線飛行ニ付複座席飛行機ニ對シ一軒ニ付一法、單座席飛行機ニ對シ五〇參トセリ

尙購買及維持獎勵金ハ當該飛行機ノ所有者俱樂部ナルトキハ一割ヲ又豫備役又ハ現役ノ操縦士ナルトキハ二割ヲ割増セラル

自家用飛行機購買及維持獎勵金トシテ政府ハ一九三一年度ニハ千二百萬法、一九三二年度ニハ九百萬法又一九三三年

度ニハ千萬元ヲ計上セリステ一九三二年一月十五日現在ニ於テ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル飛行機ハ本國ニ於テハ二八八機、植民地ニ於テハ五一機ヲ算セリ
茲ニ其ノ内譯ヲ示セハ左ノ如シ

| 飛行機 | 本國 | | | | | | 飛行機 | 個人所有ノモノ | 俱樂部所有ノモノ | 合計 |
|-----|------------------|-----------------------|-----------------------|-------------|------------------|------------------|-----|---------|----------|----|
| | ポ ロ ド ン | コ ー ド ロ ン | フ ァ ル マ ン | モ ラ ン | シ ュ レ ク | ゲ ル シ エ | | | | |
| 計 | 九六 | 三六 | 四五 | 二五 | 一三 | 二六 | 二四三 | 三六 | 三三九 | |
| 合計 | 一三四 | 七三 | 五〇 | 二七 | 一三 | 二八 | 三三九 | 九六 | 三三九 | |

(二) 自家用飛行機操縦士免狀受有者ニ對スル獎勵金ノ支給

政府ハ一九三一年六月二十九日附ノ航空省令ヲ以テ自家用飛行機操縦士免狀ノ受有者ニモ獎勵金ヲ支給スルコトニ決定シ機材及人員ノ兩方面ニ亘リ多大ナル物質的援助ヲ爲シ以テ私ノ飛行ノ普及ト發達トノ爲遺憾ナカラシムコトヲ期シ

タリ此ノ獎勵金額ハ一人當リ二千法ニシテ一九三一年四月一日以降ニ於テ自己ノ費用ヲ以テ新ニ自家用飛行機操縦士免狀ノ發給ヲ受ケタル者ニ之ヲ支給スルコトシ一九三二年一月十五日現在ニ於テ此ノ獎勵金ヲ支給セラレタル操縦士ハ實ニ一六九人ニ達セリ然レトモ此ノ獎勵金ハ一九三三年一月一日以降ノ免狀受有者ニハ千五百法ニ減額セラレタリ而シテ政府ハ一九三二年豫算ニ於テ之カ經費トシテ四十萬法又一九三三年度ニハ二十萬法ヲ計上セリ

此ノ外政府ハ自家用飛行機競技會ニ對スル補助金トシテ一九三二年度四十五萬法及一九三三年度二十七萬九千三百法、航空團體ニ對スル補助金トシテ一九三二年度四十五萬法、一九三三年度二十一萬四千五百法又其ノ自家用飛行ニ使用スル土地ノ購入、管理、維持及其ノ格納庫建設ノ爲ノ補助金トシテ一九三二年度二百萬法、一九三三年度二百四十九萬八千二百法ヲ計上セリ

(三) 私ノ飛行委員會

本委員會ハ私ノ飛行ノ進歩發達ニ關スル諸事項ヲ審議スル爲一九三一年七月組織セラレタルモノニシテ夫々政府、航空聯合會、自家用飛行機所有者側ヨリ選出セラレタル委員ヨリ成リ其ノ主ナル任務ハ自家用飛行機購買及維持獎勵金ノ割當及會計検査、私ノ飛行發達促進ニ關スル方策、私ノ飛行ニ使用セララルル機材ノ選擇、航空大臣ノ提出ニ係ル問題ノ審議ニアリ

三、航空工業ニ關スル保護獎勵

(一) 學術研究ニ關スル保護獎勵

佛國政府ハ基礎的航空科學研究ノ爲一九三〇年度ニ於テ九百萬法、一九三一年度及一九三二年度ニ於テ各一千萬法ヲ計上シ直轄研究所並各大學及其ノ他ノ研究所ニ於ケル學術研究費ニ充當セリ

(二) 航空技術員ノ養成

佛國政府ハ從來航空技術員養成ノ爲毎年高等航空工業學校 (Ecole Supérieure d'Aéronautique)ニ經營費トシテ補助金ヲ支給シタル外毎年數名ノ給費生ヲ入學セシメ相當額ノ學資ヲ支給シ居タルカ一九三〇年五月二十一日ノ省令ヲ以テ航空省ニ直屬スル官立高等航空學校 (Ecole Nationale Supérieure d'Aéronautique)ヲ設立シ航空技術員ノ養成ニ努ムルコトトナリタリ

(三) 製作工業ニ關スル保護獎勵

政府ハ一九三〇年ヨリ自家用飛行機ニ對シ購買及維持獎勵金ヲ支給シテ間接ニ製作者ヲ保護シ尙毎年一般飛行機ニ關シテ「標準型式機器研究及製作費」ノ名目ノ下ニ莫大ナル經費ヲ計上シテ標準型式機器ヲ製作セシメ之ヲ購入シテ製作工業ノ世界的聲價ノ維持ニ努メ居レリ此ノ經費ハ一九三〇年度ニハ九千百萬法、一九三一年度ニハ一億二千六百萬法、一九三二年度ニハ八千六百萬法ニ達シタリ又他方ニ於テハ優秀ナル航空記録又ハ飛行競技成績ヲ舉クルコトヲ得タル飛行機ノ製作者ニハ獎勵金ヲ支給ス此ノ金額ハ一九三一年度及一九三二年度ニハ夫々五百萬法ニ上レリ而シテ標準型式機器ノ購入ニ關シテハ左ノ各委員會ヲ設置シテ審査決定ヲ命ス

(イ) 航空科學研究最高諮問會

本諮問會ハ航空科學ニ關スル最高ノ諮問機關ニシテ航空ノ發達ニ必要ナル科學的研究制度ニ關スル一切ノ問題ヲ審議ス

而シテ本會ハ航空大臣ヲ會長、航空技術局長ヲ副會長トシ各課長、學士院會員、參議員、各大學教授、航空團體代表等ヲ委員トス

(ロ) 新型航空機器設計審査委員會

本委員會ハ新型航空機器ノ設計ヲ審査シ其ノ價値アルモノナリヤ否ヲ決定ス

(ハ) 標準型式適否審査委員會

本委員會ハ研究所ニ於テ標準型式機器ノ試験ヲ行ヒ其ノ適否ヲ審査ス

(ニ) 標準型式承認委員會

本委員會ハ標準型式適否審査委員會ニ依リテ提出セラレタル標準型式機器ヲ能フ限り詳細ニ評價シテ以テ其ノ價格ヲ決定シ價値アルモノト判定シタル時ハ其ノ製作ノ爲購買契約ヲ締結ス

(ホ) 中央航空購買委員會

本委員會ハ航空機材ニ關スル一切ノ購買契約ヲ審議決定シ購買契約ニ關スル規定ノ解釋又ハ變更ニ關シ決定權ヲ有ス

(ヘ) 同一型式製作検査委員會

本委員會ハ設計及契約書ノ規定ト其ノ製品ノ一致シ居ルヤ否ヲ検査スルヲ以テ其ノ任トナス

四、民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵

佛國政府ハ民間操縦士ノ養成ヲ一切民間ノ航空團體ノ手ニ委ネ政府ハ單ニ此等ノ航空團體ニ經費ノ一部ヲ支給シテ以テ民間操縦士ノ養成ヲ獎勵シ居レリ

而シテ右航空團體ノ尤ナルモノハ一九二一年ノ創設ニ係リ佛蘭西航空協會 (Société France-Aviation)ノ經營スル民間操縦士養成所之ナリ本養成所ハ佛蘭西ノ各地方ニ多數ノ練習所ヲ有シ政府ヨリ毎年莫大ナル經營補助金ヲ支給セラレ居レリ

右補助金支給額左ノ如シ

- 一九二四年度 三、〇〇〇、〇〇〇法
- 一九二五年度 四、〇七五、〇〇〇法
- 一九二六年度 五、三七五、〇〇〇法

| | |
|--------|-------------|
| 一九二七年度 | 五、八〇〇、〇〇〇法 |
| 一九二八年度 | 五、五〇〇、〇〇〇法 |
| 一九二九年度 | 七、〇〇〇、〇〇〇法 |
| 一九三〇年度 | 七、三〇〇、〇〇〇法 |
| 一九三一年度 | 一三、三〇〇、〇〇〇法 |
| 一九三二年度 | 一三、三〇〇、〇〇〇法 |

五、其ノ他ノ事項ニ關スル保護獎勵

(イ) 外國及佛蘭西ニ於ケル航空展覽會參加ニ對スル補助

佛國政府ハ有力ナル航空展覽會ニ參加スル場合補助金ヲ支給シ一九三一年度及一九三二年度ニ於テ夫々百萬法又一九三三年度ニハ二十四萬五百法ヲ計上セリ

(ロ) 長距離試驗飛行及國際的大飛行ノ實施ニ關スル補助

佛國政府ハ一九二七年度以降航空線路開設ノ爲ニスル國際的大飛行ニ要スル經費ヲ補助シ居レリ之カ爲ニ計上セル金額ハ一九二七年及一九二八年ノ兩年度夫々五十萬法、一九二九年度九十萬法、一九三〇年度百二十萬法、一九三一年度及一九三二年度夫々百五十萬法並一九三三年度二十八萬四百法ナリ

(ハ) 航空地圖作成ニ關スル補助

佛國政府ハ航空ノ便益ニ供セムカ爲航空地圖ノ作成ヲ陸地測量部及佛蘭西飛行俱樂部ニ委託シ毎年左ノ金額ノ補助金ヲ支給セリ而シテ陸地測量部ハ航空一般圖ヲ又佛蘭西飛行俱樂部ハ航空地方圖ヲ作成ス

| | | | |
|--------|----------|-------|----------|
| 一九二五年度 | 一一〇、〇〇〇法 | 航空一般圖 | 三〇、〇〇〇法 |
| | | 航空地方圖 | 九〇、〇〇〇法 |
| 一九二六年度 | 一〇五、〇〇〇法 | 航空一般圖 | 一五、〇〇〇法 |
| | | 航空地方圖 | 九〇、〇〇〇法 |
| 一九二七年度 | 一一六、〇〇〇法 | 航空一般圖 | 一六、〇〇〇法 |
| | | 航空地方圖 | 一〇〇、〇〇〇法 |
| 一九二八年度 | 一三六、〇〇〇法 | 航空一般圖 | 三六、〇〇〇法 |
| | | 航空地方圖 | 一〇〇、〇〇〇法 |
| 一九二九年度 | 一八〇、〇〇〇法 | 航空一般圖 | 八〇、〇〇〇法 |
| | | 航空地方圖 | 一〇〇、〇〇〇法 |
| 一九三〇年度 | 一六〇、〇〇〇法 | 航空一般圖 | 六〇、〇〇〇法 |
| | | 航空地方圖 | 一〇〇、〇〇〇法 |
| 一九三一年度 | 一〇〇、〇〇〇法 | | |
| 一九三二年度 | 一〇〇、〇〇〇法 | | |
| 一九三三年度 | 七〇、〇〇〇法 | | |

(ニ) 佛蘭西飛行俱樂部及其ノ他ノ航空團體ニ對スル補助

佛國政府ハ一八九八年創設セラレ航空全般ニ亙ル進歩發達ヲ目的トスル佛蘭西飛行俱樂部(Aéro-Club de France)及其ノ他ノ航空團體ニ對シ毎年相當額ノ補助金ヲ支給シ居レリ

六、民間航空豫算

| 年 | 次 | 民間航空豫算總額 | 內補助獎勵金 |
|------|---|-------------|-------------|
| 一九九一 | 九 | 三七,〇〇〇,〇〇〇法 | 一八,〇〇〇,〇〇〇法 |
| 一九九二 | 〇 | 二八,七九四,七〇法 | 一〇,四三七,三五法 |
| 一九九三 | 一 | 一四七,四〇一,五二法 | 三二七,〇〇〇法 |
| 一九九四 | 二 | 一四七,二一〇,九七法 | 四五六,八二〇〇法 |
| 一九九五 | 三 | 一八,四六三,三五〇法 | 四六,九三二,〇〇法 |
| 一九九六 | 四 | 一八,四六三,三五〇法 | 四六,九三二,〇〇法 |
| 一九九七 | 五 | 一六,五八二,〇〇法 | 六二,七五〇,〇〇法 |
| 一九九八 | 六 | 一五,五七五,〇〇法 | 七一,九五〇,〇〇法 |
| 一九九九 | 七 | 一六,九二二,三四法 | 七九,七三〇,〇〇法 |
| 一九〇〇 | 八 | 二八,一七四,四〇法 | 一六,三〇〇,〇〇法 |
| 一九〇一 | 九 | 五五,四九五,六三法 | 一七四,八四〇,〇〇法 |
| 一九〇二 | 〇 | 四九,四〇〇,〇〇法 | 二二,三七〇,〇〇法 |
| 一九〇三 | 一 | 四九,三六七,八六法 | 一九,九三七,〇〇法 |
| 一九〇四 | 二 | 四九,四九三,六六法 | 一五,七二四,七五〇法 |
| 一九〇五 | 三 | 四一,四九八,九五法 | 一八,七八四,三四法 |

第三 獨 逸

一、航空全般ノ組織及航空ニ對スル諸方策

(一) 航空行政機關ノ組織

從來航空ニ關スル全般の統制ハ交通省(航空局)ヲシテ當ラシメシカ左掲一九三三年二月二日附大統領令ヲ以テ新ニ航空大臣設置ノ旨ヲ公布シ航空關係事項ヲ航空省ニ移管セシメタリ

「一九三三年二月二日附航空大臣設置ニ關スル大統領令」

航空事務監理ノ爲航空大臣ヲ置ク航空大臣ハ總理大臣ニ直屬シ伯林ニ在任ス航空大臣ハ國ノ最高官廳トス
航空ニ關スル交通大臣及防空ニ關スル内務大臣ノ權限ハ之ヲ航空大臣ニ移管ス航空保安中央局ハ航空大臣ノ指揮監督ヲ受ク

航空大臣ハ別ニ細則ヲ定ム航空大臣ハ交通省及内務省トノ協議ヲ以テ航空及防空事務ノ移管並人員ノ引繼ニ必要ナル措置ヲトルモノトス

本令ハ一九三三年一月三十日ヨリ之ヲ施行ス

伯林

一九三三年二月二日

大統領 「フォン・ヒンデンブルグ」

總理大臣 「アドルフ・ヒトラー」

次テ一九二七年七月二十三日附大統領令ヲ以テ設置セラレタル航空保安中央局(Zentralstelle für Flugsicherung)ハ一九三三年二月二十八日ヲ以テ航空保安局(Reichsanstalt für Flugsicherung)ト改稱セラレ從前ノ如ク全獨逸ニ及フ航空保安業務ノ統一的管理ニ任セリ

獨逸ニ於ケル航空諮問機關ハ航空諮問會及獨逸航空機委員會ノ二機關ナルカ左ニ之カ組織及權限ヲ略述セム

航空諮問會 (Beirat für Luftfahrwesen) ハ一九二四年二月五日附閣令ヲ以テ設置セラレタルモノニシテ其ノ名譽會員ハ航空大臣ノ選任スル所ナリ而シテ其ノ主タル目的ハ重要ニシテ且根本的ナル航空關係事項ニ對スル意見具申ニシテ左ノ四委員會ヨリ構成セラル

(イ) 安全委員會

本委員會ハ専ラ航空事故ノ技術的原因ノ調査ヲ爲シ且航空安全性ニ就キ提案ヲ爲スヘキモノトス

(ロ) 交通委員會

本委員會ハ航空路網ノ設定ニ關シ諮問ニ應フルモノトス

(ハ) 航空地圖委員會

本委員會ハ航空地圖ノ作成ニ援助ヲ與フルモノトス

(ニ) 航空機乘員委員會

本委員會ハ航空機乘員(操縦士、機關士、航空士)ノ利益ヲ其ノ一身上ノ關係ニ於テ確認スルニ當リ諮問ニ應フルモノトス

獨逸航空機委員會 (Der Deutsche Luftfahrzeug-Anschluss) ハ一九三〇年七月十九日附航空法施行規則第二條ニ基キ設置セラレタルモノニシテ航空機建造檢査規則ヲ起草シ實際ノ必要ト科學ノ進歩ニ順應シテ之ヲ改正變更スルヲ以テ目的トス委員會ハ委員長一名、普通會員十九名ヨリ成リ五箇ノ分科會ニ分ル

(イ) 飛行機分科會

(ロ) 發動機分科會

(ハ) 無發動機航空機分科會

(ニ) 航空船分科會

(ホ) 組織問題分科會

(二) 航空關係法規

一九二二年八月一日附航空法ノ施行規則ハ一九三〇年七月十九日公布、同年十月一日ヨリ施行セラレタルヲ以テ航空法規ハ一先ツ整備ノ域ニ達シタリ

抑々獨逸政府カ航空法規制定ニ手ヲ染メシハ已ニ一九一三年ノコトニシテ議會ノ協贊ヲ經ルニ至ラスシテ大戰ノ勃發ニ遭遇シタレハ制定ノ業ハ茲ニ一頓挫ヲ來セリ然ルニ平和ニ依ル國內秩序ノ回復ト國內航空ノ發達トハ頓ニ航空法制定ノ急ナルヲ知ラシメ一九二〇年起草提出セラレタル航空法案ハ一九二二年ノ議會ニ於テ可決、一九二三年十月一日ヨリ施行セララルコトナレリ航空法規制定ノ翌年參議院及議會ニ提出セラレタル右航空法ノ施行規則ハ同年會期中ニ議決ノ運ニ至ラスシテ止ミ爾來改正ニ改正ヲ加ヘ漸ク一九三〇年七月十九日ヲ以テ其ノ公布ヲ見ルニ至レリ右二法規ノ制定ニ依リ同國ノ航空事務ハ營業警察ヨリ見ルモ將又交通上ヨリスルモ等シク中央政府ノ所管トナリタレトモ同國ノ航空ハ依然「ヴェルサイユ」條約及一九二六年五月二十二日ノ巴里航空協定ニ基キ制定ヲ餘儀ナクセシメラレタル諸法規ノ拘束ヨリ離脱スルニ至ラサレハ今ヤ之等諸法規ノ廢棄ハ同國ノ目指ス最モ重要ナル目標ノ一トナレリ自由ナル航空ノ發達ヲ妨クル諸法規トハ次掲ノモノナリ

- (イ) 「ヴェルサイユ」條約第一七七條、第七八條及第一九八條ノ實施ニ關スル法律……………一九二六年七月八日附
 - (ロ) 航空機建造規則……………一九二六年七月十三日附
 - (ハ) 無操縦士及近代式戰鬥機ノ技術的特徴ヲ具フル飛行機ニ關スル規則……………一九二六年七月十三日附
 - (ニ) 航空機乘員ノ養成制限ニ關スル規則……………一九二六年七月十三日附
 - (ホ) 航空者名簿ノ保管ニ關スル規則……………一九二六年七月十三日附
- 對外航空關係ハ相手國トノ特別航空協定ニ因リ規律セララルモノニシテ一九三三年一月ニ於ケル締約國ハ英、米、佛

ヲ初メ其ノ數十五ヶ國ニ及ヘリ之等箇々ノ協定ハ一九一九年十月十三日ノ巴里航空條約ト同一ノ事項ヲ律スルモノナリ尙獨逸ハ未タ右條約ニ加盟スルノ運ニ至ラサレトモ空域ニ於ケル平等ナル權利ヲ行使シ得ルノ曉ニ於テ之ニ參加スヘキハ蓋シ自明ノコトニ屬ス

(三)航空ニ對スル諸方策

獨逸ハ「ヴェルサイユ」條約第一九八條ニ因リテ空軍ノ保有ヲ禁止セラレ居ルノミナラス一九二六年五月二十二日ノ巴里航空協定ニ基キ競技飛行ニ對スル財政的支持モ亦原則トシテ之ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ同國航空ノ主タル活動領域ハ獨リ航空輸送事業ニ在ルノミ
 特ニ外國ニ通スル航空路ノ經營ニ對シ補助金ヲ支給スルハ國ニシテ航空保安業務及地上施設ニ對シテ財政的支持ヲ爲ス他、航空機並同機器ノ製作委託又ハ補助金ノ支給ニ依リテ航空工業全般ノ發達ヲ促進セリ
 各州ハ飛行場ノ設置及氣象業務ニ補助金ヲ支給スル等主トシテ國內航空ノ發達ニ協力シ都市ハ多ク飛行場ノ維持管理ニ依リテ航空ノ發達ニ貢獻シツツアリ

更ニ航空ハ競技的、科學的又ハ經濟的ナル數多ノ私的團體ニ依リテ促進セラレ其ノ大部分ハ私的團體ノ中心ト見做サルル飛行俱樂部ノ所屬スル獨逸航空協會(Deutscher Luftfahrt-Verband)ニ依リテ統轄セラル本協會ニ所屬スル各種團體ノ特ニ努力スル所ハ會員ヲシテ實際飛行ニ慣レシムルコトニシテ同會員ハ時ニ操縦士トシ或ハ又搭乗者トシテ飛行スルコトヲ得更ニ會員個人ノ飛行機ノ保管及讓渡ヲ容易ナラシメ之カ爲適切ナル措置ヲ講セリ
 右ノ他同協會ハ完備セル所屬飛行學校ヲシテ競技飛行ノ操縦士養成ニ當ラシメ同方面ニ優秀ナル實績ヲ止メツツアリ又競技飛行ハ航空協會又ハ所屬團體ノ開催スル競技會ニ依リテ促進セラレ各大學專門學校ニハ科學的及實際的研究ニ依リテ貢獻セムトスル航空科學研究團體アリ
 尙一九三二年設立セラレタル國民競技飛行聯盟ハ航空全般ノ促進ヲ計ルト同時ニ地上組織ノ構成ニ當リ、滑空飛行及

模型飛行ノ發達ニ與ルハ「フランクフルト、アム、マイン」ナル獨逸模型滑空飛行聯盟ナリ

(四)航空豫算

一九三二年度航空豫算額ハ三九、三一〇、八〇〇馬克ニシテ一九三一年度ノ三七、〇五〇、六三〇馬克ニ比シ二、二六〇、一七〇馬克ノ増加ヲ見タリ

| 費目 | 一九三二年度 | 一九三一年度 | 前年ニ對スル増減 (△印ハ減) |
|---------------------------|-------------|-------------|--------------------|
| 航空ノ技術的目的促進ノ爲ニ | 五、一三〇、〇〇〇馬克 | 五、一三〇、〇〇〇馬克 | |
| 航空工業ノ經濟的促進ノ爲ニ | 一、一〇〇、〇〇〇 | 七、〇〇〇、〇〇〇 | 四、〇〇〇、〇〇〇 |
| 獨逸航空試驗所維持費 | 一、一三五、〇〇〇 | 一、五〇八、〇〇〇 | 二、一七三、〇〇〇 |
| 特殊科學研究委託費 | 七〇〇、〇〇〇 | 七三五、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| 獨逸ルフト、ハンザ「會社」補助金 | 一、七三六、一〇〇 | 一、八三七、一〇〇 | 一、〇四一、〇〇〇 |
| 航空氣象事業費 | 五〇七、三〇〇 | 五五三、一〇〇 | 四五、八〇〇 |
| 職業的航空機乘員養成費 (獨逸交通飛行學校) | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 二、二五六、〇〇〇 | 二五六、〇〇〇 |
| 航空地圖並航空案内作成補助費 | 六、五〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| 滑空飛行補助金 | 三、四五〇、〇〇〇 | 三、四〇〇、〇〇〇 | 五〇、〇〇〇 |
| 航空專門雜誌刷成補助費 | 三六、〇〇〇 | 四〇、〇〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 飛行競技會及高等專門學校所屬航空研究團體維持費 | 二、八四〇、〇〇〇 | 二、四〇〇、〇〇〇 | 四四〇、〇〇〇 |

| | | | |
|----------|------------|------------|------------|
| 自由氣球補助金 | 五,000 | 五,000 | — |
| 航空船航空促進費 | — | 1,500 | 1,500 |
| 合計 | 700,000 | 900,000 | 1100,000 |
| | 三九,三〇八,〇〇〇 | 三九,〇〇〇,〇〇〇 | 一一,一〇一,七〇〇 |

二、定期航空ニ關スル保護獎勵

(一)獨逸「ルフト、ハンザ」會社補助命令書

第一條 航空線路網

中央政府補助金ハ原則トシテ唯定期航空ニ對シテノミ之ヲ支給ス補助スヘキ航空線路ハ飛行年度ノ各經營期間毎ニ交通大臣之ヲ決定ス

第二條 郵便物輸送

獨逸「ルフト、ハンザ」會社ハ中央政府ノ補助ヲ受クル飛行ニ於テ一〇〇珎以内ノ郵便物ヲ遞送スヘキ義務ヲ負フ

第三條 補助金額

(イ)獨逸「ルフト、ハンザ」會社ハ中央政府ノ完全ナル補助ヲ受クル航空線路ニ於テ定期的ニ飛行シタル料ニ應シ飛行機ノ各型ニ就テ別ニ定ムル額ヲ受クルモノトス

(ロ)航空線路ノ長サハ離着陸地ノ中央ニ地點間ノ空中距離ヲ以テ計算ス但シ他ノ飛行方面カ豫期セラレ又ハ政治的、地理的理由ニ依リテ制約セラルル場合ハ此限ニ在ラス

交通大臣ハ中央政府ノ補助ヲ與フル各航空線路ニ就テ右距離ヲ確定シ之ヲ會社ニ通告スルモノトス

航空線路ノ距離カ一般的原則ニ異リテ—二地點間ノ直線距離—計算セラルヘキトキニハ直ニ交通大臣宛航空線路及通過スヘキ主タル都邑ヲ記入シタル三十萬分ノ一縮尺ノ地圖ヲ提出スルコトヲ要ス

(ハ)獨逸「ルフト、ハンザ」會社カ定期航空ニ於テ獨逸定期航空飛行場若クハ着陸場ニ就テ契約ノ定ムル所ニ從ヒ飛行場經營者ニ對シ離着陸手数料ヲ支拂ハサルヘカサルトキハ其ノ限度ニ於テ別ニ定ムル標準ニ從ヒ交通大臣之ヲ補償ス

飛行場經營者トノ契約締結ニハ豫メ交通大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

(二)中央政府ノ完全ナル補助ヲ受クル航空線路ニシテ獨逸「ルフト、ハンザ」會社ニ對シ國內又ハ國外ノ他ノ方面ヨリ補助金ノ流入アルトキハ中央政府補助金中ヨリ其ノ相當額ヲ削減ス流用性アル補助金ハ特別ノ條件ノ下ニ航空擴張補助金トシテ獨逸「ルフト、ハンザ」會社ニ支給スルコトヲ得獨逸「ルフト、ハンザ」會社ハ各飛行期間經過後(一九三〇年十二月十五日及一九三一年五月十五日迄)他方面ヨリ受ケタル補助ノ種類及金額ヲ交通大臣ニ報告シ場合ニ依リテハ補助金ヲ受ケサル旨ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

(三)第一項(イ)及(ハ)ニ基ク中央政府補助金ハ時間表ニ從ヒ豫定日ニ於テ完全ニ(即チ出發飛行場ヨリ到着飛行場迄)又ハ一部分(即チ航空路中ノ任意ノ數飛行場間)完了セラレタル飛行ニ對シテ全額又ハ一部ヲ支給セラル定期的ニ着陸スヘキ飛行場ヲ飛過シタルトキニハ其ノ理由ヲ航空日誌ニ記入セサルヘカラス

(四)飛行經營ノ維持ノ爲ニ必要ニシテ豫メ準備セラレタル航空ノ補償ニ對シテハ飛行ノ月次計算ニ於テ第三項所定全額ノ他二・五%ノ割増ヲ與フ但シ右割増ニ依リ一飛行年度ニ對シテ豫定セラレタル全額ヲ超過スルコトヲ得ス

(五)若シ獨逸「ルフト、ハンザ」會社カ交通ノ要求ニ應シ第二ノ飛行機ヲ中央政府ノ完全ナル補助ヲ受クル航空線路又ハ其ノ區間ニ於テ就航セシメサルヘカサリシトキニ於テハ之等ノ飛行ニ對シテモ亦別ニ定ムル額ノ補助金ヲ支給スヘシ但シ之カ別途ノ支出金ナキ限右金額ハ當該飛行年度分ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス之等ノ飛行ニ於テハ

時間表ニ豫定セラレ居ルモ交通上不必要ナル中間着陸ヲ除外スルコトヲ得

(六) 中央政府補助金ノ決算ハ毎月別ニ雛形(一)ノ形式ニ從ヒテ之ヲ行フコトヲ要ス雛形(二)ノ形式ニ從ヘル證明資料ヲ以テ右計算ノ基礎ト爲ス右證明資料ニハ公ノ記入アル航空日誌ノ紙葉ヲ證據トシテ添付スルモノトス雛形(一)及(二)記載ノ注意事項ハ良ク之ニ留意セサルヘカラス唯飛行經營カ一月中僅ノ回数ノミ遂行セラレタルトキハ翌月又ハ前月ト同時ニ各月ノ補助金決算ヲ爲スコトヲ得

(七) 中央政府補助金ハ月次決算ノ検査後之ヲ支給ス但シ検査完了前ニ於テモ既ニ飛行セル距離ノ範圍内ニ於ケル補助金ノ内金拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得

各飛行期間前ニ於テ經營開始準備ノ爲獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ハ多額ノ費用ヲ必要トスヘシ交通大臣ハ航空線路計畫認可後右經費補填ノ爲請求ニ基キ相當額ノ前拂ヲ爲スヘキコトヲ留保ス

(八) 毎日二枚ノ無料航空券ハ任意ノ使用ニ供セラルル爲交通省ニ提供セラルヘキモノトス本規定ニ基キテ申込ミタル航空旅客ハ獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」經營ノ全航空線路ニ於シ其ノ有償旅客ト同等ノ待遇ヲ受ケ無償ニテ輸送セララルル六月十六日乃至八月二十三日ノ期間内ニ於ケル右航空券ハ有償旅客ヲ收容シテ尙空席アル場合及其ノ限ニ於テノミ有效ナリ郵便物運送ニ關シ外國航空會社トノ協同經營ニ依ル航空線路上ノ輸送ハ例外的ニ唯獨逸航空機ニ依リ且協同經營會社ノ同意ヲ得タル場合ニノミ行ハルヘシ之等ノ航空旅客ハ交通省ヨリ有效ナル航空券ヲ供與セラル郵便物運送航空線路ニ於ケル無償飛行ニ就テハ交通大臣ハ少クトモ飛行豫定日ノ十日前ニ之ヲ通告シ其ノ他ノ飛行ニ就テハ七十二時間ノ時間ヲ嚴守スヘシ獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ハ右通告ノ故ヲ以テ既ニ豫約セラレタル座席ヲ開放スルノ義務ナキモノトス

(ロ) 獨逸海外駐在官吏ハ當該官憲ノ證明アル場合獨逸及外國内ノ公ノ旅行ニ際シ四%ノ料金割引ヲ許與セラル外國航空會社トノ協同經營航空線路ニ於テハ當該外國カ其ノ官憲ニ與フルト同一ノ割引ヲ受ケ全額支拂ヲ爲ス旅客

ト同等ノ待遇ヲ受クルモノトス

(ハ) ニ記載ノ航空旅客ハ出發ニ先キ料金表所定額ノ一〇%ノ手数料ヲ出發飛行場ニ於テ支拂フコトヲ要ス右手敷料ニハ保險ヲモ包含ス若シ航空旅客カ右手敷料ノ支拂ヲ拒絕シタルトキニハ獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ハ右旅客ヲ輸送ヨリ除外スルコトヲ得

第四條 從業員及使用機材

(一) 獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」主ナル使用人及會社ノ配置スル獨逸飛行場ニ於ケル從業員並飛行機乘員ハ獨逸國籍ヲ有スルモノタルコトヲ要シ之カ例外ニ就テハ交通大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

(二) 經營ニ使用セラルル凡テノ機材ハ原則トシテ獨逸工場ニ於テ獨逸ノ材料ヲ以テ製作セラレタルモノナラサルヘカラス外國製機材ハ臨時交通大臣ノ許可ヲ受ケテノミ之ヲ使用スルコトヲ得交通大臣ハ右許可ノ附與ニ際シ特別ノ條件就中其ノ許可ヲ獨逸航空研究所ニ對シ同所ニ於テ決定シ得ル範圍内ノ完全ナル製作證書ヲ堪航性ノ試験及之カ保管ノ爲ニ提出スヘキコトニ懸ラシムヘキコトヲ留保ス

(三) 飛行機乘員ノ後繼者ヲシテ航空線路業務ニ慣レシメムカ爲獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ハ獨逸交通飛行學校ニ對シ五〇〇、〇〇〇飛行料内ニテ第一操縦席ヲ無償ニテ提供スヘキモノトス

(四) 自己ノ經營ニ於テ飛行機ノ製作ヲ爲スコトヲ許サス

如何ナル試験タリトモ書面ヲ以テ申請シ交通大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノトス右許可ハ提案セラレタル試験ノ實施ニ就テ獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ニ大ナル利益存スルトキ及試験カ獨逸航空研究所及實地試験ヲ委託セラレタル其ノ他ノ機關ト一致シテ行ハルルトキニ於テノミ之ヲ附與ス

獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ハ其ノ經營ニ於テ使用セラレタル機材ニ依リ蒐集セラレタル技術的經驗ノ全部ヲ獨逸ノ當該機製作業者及獨逸航空研究所ニ提供スルノ義務アルモノトス

獨逸航空研究所ハ更ニ取締役ノ同意ヲ經テ獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ニ於ケル機材ノ維持ニ關スル技術的懸案ニ關與シ其ノ必要ト認ムル範圍内ニ於テ之ニ相應スル根據ニ關シ調査ヲ爲スコトヲ得交通大臣ハ右ト同一ノ權利ヲ實地検査ヲ委託セラレタル其ノ他ノ機關ニ移轉スルコトヲ得右義務ニ關聯シ獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ハ何等特別ノ經費ヲ支出スルコトナシ

第五條 會社ノ監督

(一)獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ハ交通大臣ノ代理人及其ノ特ニ任命セル鑑定人ヲシテ凡テノ帳簿及書類ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ要ス

交通大臣ハ會社ノ經費ヲ以テ帳簿—經營検査ヲ爲サシムルコトヲ留保ス獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」カ外國會社ニ參加シ又ハ之ト協同シテ航空輸送事業ヲ經營スルトキハ請求ニ基キ之等ノ會社トノ決算書ヲ提出スルコトヲ要ス

第六條 結尾規定

(一)前掲ノ諸規定及獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ニ特ニ課セラレタル義務ニ違反シタルトキニハ交通大臣ハ中央政府補助金ノ支給ヲ取消シ又ハ減額スルコトアルヘシ

(二)交通大臣ハ必要ニ應シ本補助命令書ヲ補充又ハ更改スルノ權ヲ留保ス交通大臣ハ右變更ヲ少クトモ效力發生ノ二週間前ニ獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ニ通告スヘシ

伯林 一九三〇年七月十九日

交通大臣 「フォン・グエラアルド」

(二)輸送事業ノ概況

獨逸航空輸送事業ハ數年來歐洲大陸ヲ席捲シ遂ニ全世界ヲ覆フニ至リタル世界經濟恐慌ニ因ル不況ノ重壓ヲ受ケ加フルニ補助金ノ削減アリタルカ爲獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ノ飛行距離モ一九三二年ニハ八、一三〇、五九〇軒トナリ一

九三一年ノ八、九八四、二五一軒ニ比シ約九・五「パーセント」ノ減少ヲ示セリ然レトモ同社ハ全員協力シテ克ク實施率及安全率ノ向上ヲ計リ其ノ貨物輸送量ハ經濟鎖國主義ニ災セラレテ前年ニ比シ約一五・四「パーセント」ノ減少ヲ見タルカ輸送旅客數ニ於テハ却テ一九三一年ノ八二、九九八名ヨリ八五、五七八名トナリ約四・三「パーセント」ノ増加ヲ示シタリ而シテ其ノ經營航空路ヲ見ルニ一九三二年夏季ニハ伯林—「ハンノーヴァー」—「アムステルダム」—「倫敦線」ヲ初メ殆ト前年ト大差ナキ航空路ヲ經營シタリ

又一九三〇年獨逸「ルフト」、ハンザ「會社」ト協定シテ専ラ國內航空路ノ經營ニ任シタル獨逸航空會社モ一九三二年夏季ニハ「ドレスデン」—「ケムニッツ」—「ブラウエン」—「ホーフ」—「パイロイト」—「ニルンベルヒ」—「フュルト」線ヲ初メ一〇航空路ヲ經營シ其ノ實施率モ益々向上シテ九五・〇「パーセント」トナリ又獨逸航空會社タル「デルフト」ノ輸送成績モ輸送郵便物量ヲ除キテハ何レモ増加ノ道程ヲ辿レリ

今一九一九年航空輸送事業創始ノ年ヨリ最近ニ至ル輸送成績統計ヲ掲ケ其ノ發展ノ跡ヲ示サム

獨逸航空輸送統計

| 年次 | 飛行距離 | 輸送旅客數 | 輸送貨物量 | 輸送郵便物量 |
|-------|-----------|---------|-------|--------|
| 一九一九年 | 五八〇、一三九軒 | 二一〇四三名 | — | — |
| 一九二〇年 | 四八〇、〇五三 | 三九七五 | 五、二〇〇 | 六、五〇〇 |
| 一九二一年 | 一、六五四、〇〇〇 | 六八二〇 | — | — |
| 一九二二年 | 一、三〇三、六八〇 | 七、七三三 | 三、七〇〇 | 三、一〇〇 |
| 一九二三年 | 一、七二七、八四三 | 八、五〇七 | 三、九〇〇 | 五、〇〇〇 |
| 一九二四年 | 一、五八三、四九三 | 一、三、四三三 | 一、七〇〇 | 二、三〇〇 |

| | | | | |
|-------|------------|----------|-----------|----------|
| 一九二五年 | 四、九四九、六六一 | 五五、一八五 | 五、二一〇、〇〇〇 | 二、八七、〇〇〇 |
| 一九二六年 | 六、五四一、一五九 | 八四、五九四 | 一、〇五六、八三四 | 五五〇、八五一 |
| 一九二七年 | 九、九六九、九九五 | 一五、一〇九、一 | 二、三三六、〇七四 | 八三六、八八六 |
| 一九二八年 | 一一、四九七、四四四 | 一三〇、七一一 | 二、一六三、八七五 | 三五〇、三九三 |
| 一九二九年 | 一〇、四一八、四四五 | 九六、八三五 | 二、〇七〇、三五五 | 三八五、三四四 |
| 一九三〇年 | 一〇、八六一、八四九 | 九三、六七七 | 二、一七六、〇二六 | 四八〇、九六〇 |
| 一九三一年 | 一〇、三三八、四四六 | 九一、一六七 | 二、一三〇、七五五 | 四〇五、九三三 |
| 一九三二年 | 九、三六七、一三〇 | 九一、四八九 | 二、一八六、六〇〇 | 三六四、二〇〇 |

五四

三、航空工業ニ關スル保護獎勵

中央政府ハ航空機並同機器ノ發達等所謂技術促進ノ爲一九三一年及一九三二年ノ兩年度ニ於テ各々五、一三〇、〇〇〇馬克ヲ計上シ技術獎勵ノ目的ヲ以テ開催シタル展覽會及競技會ノ爲ニモ亦其ノ資金ヲ供與シタリ特ニ政府ハ世界經濟恐慌ノ渦中ニ在ル自國航空工業ノ確立ヲ計ラムトシ之カ經濟的促進ノ目的ヲ以テ一九三二年度ニハ一一、〇〇〇、〇〇〇馬克ヲ計上シタルカ之ヲ前年度ニ比スレハ實ニ四、〇〇〇、〇〇〇馬克ノ増加ナリ即チ他ノ費目ニ在リテハ何レモ之ヲ削減シツツ斯克ノ如ク主力ヲ航空工業促進ノ爲ニ致シタル一事ニ徵スルモ如何ニ政府カ同工業ノ確立ニ腐心シアルヤヲ窺フニ足ルヘシ

航空工業ノ發達ヲ促進セムカ爲ノ私的機關トシテ獨逸航空工業組合(Reichsverband der Deutschen Luftfahrt-Industrie)アリ他ノ經濟的團體及官廳ニ對スル協同的利益ノ代表機關ニシテ少數ノ例外ヲ除キテハ概ネ之ニ結合セラル今之ニ屬ス

ル主要ナル製作會社數ヲ舉クレハ次ノ如シ

- (イ) 飛行機製作會社……………一七
 - (ロ) 滑空機製作會社……………六
 - (ハ) 自由氣球—航空船製作會社……………四
 - (ニ) 發動機製作會社……………九
- 從來本組合ハ航空官廳ニ對シ航空全般ノ獎勵策ヲ建議シ更ニ航空機輸出ニ關スル具體的方策トシテ支那及伯刺西爾方面ニ對スル輸出商組合ノ成立ヲ助成シタリ因ニ本組合ハ常ニ各種展覽會參加ノ爲準備シ就中先年巴里ニ開催セラレタル航空展覽會ニハ共同出品テフ新ナル形式ヲ以テ參加シタルコトアリ

四、民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵

(一) 養成機關ノ監督

航空機操縦士ノ實際的養成及飛行學校ノ經營ニ關スル公ノ監督機關ハ航空省ニシテ之カ民間的統制機關ハ未タ設置ノ運ニ至ラス

(二) 乘員養成機關

航空機操縦士養成機關ニハ政府ヨリ補助金ノ支給ヲ受ケ専ラ職業的操縦士ノ養成ニ携リ以テ航空輸送會社乘員ノ補充ニ任スル獨逸交通飛行學校及全然公ノ補助金ナク競技飛行家ノ養成並操縦士ノ補習教育ニ當ル私立飛行學校ノ二種アリ後者ノ中獨逸航空協會ニ依リ設立セラレ専ラ私的資金ヲ以テ維持セラルル獨逸飛行學校(Deutsche Luftfahrt G. m. b. H.)ハ一九二六年十二月十八日創立セラレ其ノ資本金ハ二〇、〇〇〇馬克ニシテ伯林「シュターケン」、「ヘーブリンゲン」及「ウェルツブルク」ノ三箇所ニハ規模大ナル養成機關ヲ有セリ右三養成機關ノ間ニハ夫々教育範圍ノ協定ヲ

五五

爲サシメ初等教育ハ主トシテ伯林「シュターケン」及「ペープリンゲン」へ再教育ハ之ヲ「ウールツブルク」養成所へ委託スルニ至リシハ一九三〇年七月ナリキ

(イ)伯林「シュターケン」養成所

- A 一級及A二級假免狀ヲ受クル爲ノ初歩教育
- A 一級及A二級操縦士免狀ヲ受クル爲ノ初歩教育

曲技飛行教育(一定ノ制限ノ下ニ)

A 一級、A二級及曲技飛行機ニ依ル練習飛行ノ指導

(ロ)「ペープリンゲン」養成所

- A 一級及A二級假免狀ヲ受クル爲ノ初歩教育
- A 一級及A二級操縦士免狀ヲ受クル爲ノ初歩教育
- A 一級、A二級及曲技飛行機ニ依ル練習飛行ノ指導

(ハ)「ウールツブルク」養成所

- A 二級假免狀ヲ受クル爲ノ初歩教育
- A 二級操縦士免狀ヲ受クル爲ノ初歩教育
- K 一級及K二級曲技飛行教育

競技飛行ノ再教育

主トシテA二級及曲技飛行機ニ依ル練習飛行ノ指導

教育成績統計

| 年次 | 種別 | 養成生徒數 | 飛行時間數 | 飛行距離 | 飛行回數 |
|-------|----|-------|--------|--------|--------|
| 一九二七年 | | 二一八名 | 三、七三三時 | 七六九二〇浬 | 二二四三六 |
| 一九二八年 | | 一八三 | 四、四六六 | 七七八九〇 | 二八九八五 |
| 一九二九年 | | 一七八 | 五、六二九 | 一一、〇一三 | 三四、〇六 |
| 一九三〇年 | | 一六一 | 五、〇九〇 | 一一、三五一 | 三五、四八三 |
| 一九三一年 | | 二〇九 | 六、一八八 | 一五、一八五 | 四五、八三三 |
| 一九三二年 | | 二六〇 | | | |

尙最近ノ情報ニ依レハ獨逸競技飛行協會(Deutscher Luftsport-Verband)ハ獨逸航空協會及獨逸飛行俱樂部所屬ノ飛行學校ヲ合同シテ獨逸競技飛行學校(Deutsche Sportfliegerschule)ヲ設立シA二級操縦士以下ノ養成ニ當ル管ナリ
 翻ツテ前掲獨逸交通飛行學校ノ沿革ヲ見ルニ同校ハ一九二五年五月設立セラレ政府ノ参加額五〇、〇〇〇馬克、獨逸「ルフト、ハンザ」會社ノ二〇、〇〇〇馬克合計七〇、〇〇〇馬克ノ資本金ヲ有シ「ブラウンシュワイヒ」、「シュライスハイム」、「ミュンヘン」及「ワルネミュンデ」ニ養成機關ヲ置ク一九三二年度ノ之ニ對スル政府補助金ハ二、〇〇〇、〇〇〇馬克ナリ

又航空船操縦士ノ養成機關トシテハ一九二九年設立セラレタル獨逸航空船會社アリP・N二十八型航空船ヲ以テ「シュターケン」ニ於テ乗員ノ養成ニ當リ一九三〇年ニハ既ニ四名ノ操縦士免狀受有者ヲ出シタリ
 無發動機飛行機操縦士養成機關トシテ著名ナルハ三十九箇所ニ練習所ヲ有スル獨逸航空協會及「ワッサークッペ」、「ロジッテン」ノ二校ヲ有スル「ロエーン、ロジッテン」會社ニシテ本會社ハ別ニ航空科學ノ研究ニ當レリ

五、航空科學研究團體

航空科學研究部門ニ於テ其ノ統制監理ニ任スルハ獨逸航空科學研究評議會(Deutscher Forschungsrat für Luftfahrt.)ニシテ各種航空研究團體ノ主席ヲ以テ之ヲ組織シ研究範圍ノ協定及關係官廳ヨリノ請求ニ基キ專門的意見ヲ具申スルヲ以テ目的トス

(一)「ゲッティンゲン」流體力學研究所

本研究所ハ在伯林「カイゼル、ウキルヘルム」氣流研究所ノ一部ニシテ政府補助金及其ノ固有ノ收入ヲ以テ一切ヲ維持ス而シテ主タル研究ハ模型航空機ニ對スル人工氣流ノ作用ニ關スルモノ及氣體力學ノ二部門ニシテ航空機器ノ製作改良ニ對シ價値アル役目ヲ果シツツアリ

(二)伯林「アードレルスホーフ」所在獨逸航空研究所

本研究所ハ公ノ補助金ヲ受クル航空關係團體ヲ以テ組織ス航空技術、科學ノ研究及實驗ヲ主トスル航空ノ助長ヲ以テ主タル目的トシ氣體力學、靜力學、發動機、機材、寫眞航法、電氣工學、航空及試験ノ八部ヨリ成ル一九三二年度ノ之ニ對スル維持費ハ一、二三五、〇〇〇馬克ナリ

(三)「ローニン、ロジッテン」會社

本會社ノ主タル使命ハ滑空飛行ノ助長ニアレトモ同時ニ「ワッサークッペ」研究所ヲシテ航空科學ノ研究ヲ爲サシメ且ツ滑空競技會ヲ支援ス

(四)伯林航空科學協會

公ノ補助金ヲ受クル航空關係團體ノ組合ニシテ航空ニ關スル講演會及研究會ノ開催並專門書ノ刊行及他ノ團體トノ協同研究ヲ以テ任務トス

六、航空保安設備

(一)地上設備

此ノ外「アーヘン」工業大學空力學研究所及「シュットガルト」工業大學航空技術研究所等各大學專門學校所屬研究機關ハ航空機製作ノ組織的問題ヲ研究シ一九三二年度ニ於テ政府ヨリ之カ研究費トシテ計上シタルハ一五八、〇〇〇馬克ナリキ

航空ノ用ニ供セラルル飛行場及着陸場ノ設置ハ中央政府ノ管掌スル所ニ非ラスシテ専ラ私企業ヲ以テ又ハ自治團體ノ經營スル所ナリ從テ半官半民ノ形式ニ依リ設置セラレ各都市ノ關與スルモノ多シ
獨逸飛行場ノ約三分ノ二ハ一九二六年九月漢堡ニ設立セラレタル「獨逸飛行場組合」ニ所屬ス飛行場ハ航空一般ノ用ニ供セラルル「公共用飛行場」、特殊ノ目的ニ使用セラルル「私ノ飛行場」及不時着陸場ニ分タレ公共用飛行場ハ更ニ設備ノ大小ニ應シテ第一級及第二級ニ區別セラルル一九三三年一月現在ニ於ケル飛行場數左ノ如シ

| | | |
|----------|------|----|
| 第一級飛行場 | 陸上 | 二五 |
| | 水上 | 四 |
| | 水陸兩用 | 二 |
| 第二級飛行場 | 陸上 | 六一 |
| | 水上 | 四 |
| 第一級不時着陸場 | | 一三 |
| 第二級不時着陸場 | | 一〇 |

(二)航空保安業務

一九二七年七月二十三日附閣令ニ基キ設置セラレタル航空保安中央局ハ前述ノ如ク航空保安局 (Reichsamt für Flugsicherung) ト改稱セラレ航空大臣ニ直隸シ航空氣象業務、遠距離航空通信業務及夜間航空路照明業務ヲ管理ス政府ハ航空保安施設費及維持費並人件費及物件費ヲ包含シ一九三二年度豫算トシテ二、一六四、九〇〇馬克ヲ計上シタリ

(イ) 航空氣象業務

飛行機操縦士ニ對スル氣象通報ハ伯林ヲ初メ十六飛行場ニ存在スル特殊ノ航空氣象觀測所ニ於テ行ハレ飛行ニ先チ又ハ飛行間適時通報セラレ

右航空氣象觀測所ハ其ノ他自ラ航空氣象ヲ觀測シ上空ニ於ケル風力測定ヲ爲スモノトス前項豫算金額ノ中之ニ充當セラレタルハ一九六、〇〇〇馬克ナリキ

(ロ) 遠距離航空通信業務

遠距離航空通信業務ノ使命ハ航空保安ニ必要ナル通信施設ヲナシ航空ノ爲ノ通信連絡ニ任スルニ在リ而シテ之ヲ要約スレハ國內、國外飛行場相互間ヲ連絡スヘキ「航空路遠距離通信」、飛行場及飛行機間並飛行機相互間ノ通信ヲ計リ方尙ヲ探知セシムル「飛行機遠距離通信」及氣象通報ノ受領及傳達ニ任スル「航空氣象遠距離通信」ニ分タレ別ニ無電技術員ノ養成ニ當レリ一九三二年度之カ爲計上セラレタル豫算額ハ四七〇、六〇〇馬克ニ及ヒタリ

(ハ) 夜間航空路照明業務

航空保安局ノ照明業務ハ夜間航空路ニ於ケル航空路照明及不時着陸場ノ設置及其ノ經營ヲ目的トス個々ノ夜間航空路ニハ夜間航空ノ必要ニ從ヒ二〇—四〇軒ノ間隔ヲ以テ航空標識燈ヲ設クル他五〇—七〇軒ノ間隔毎ニ夜間地上標示燈ヲ有スル不時着陸場ヲ設置シ飛行機之ニ近ツキタルトキハ信號燈ヲ以テ其ノ所在ヲ知ラシム夜間航空路ニ沿ヘル不時着陸場ハ遠距離通信施設ヲ有シ夜間航空ノ保安ニ必要ナル機器ヲ備フ而シテ一九三二年度政府ハ夜間航空路照明及不時着陸場經營費トシテ二〇三、五〇〇馬克ヲ計上シタルカ從來右ノ如キ夜間航空路設備ヲ有シタルハ左ノ各線ナリ

伯林——「ダンチヒ」——「ケーニヒスベルヒ」

伯林——「ハルレ」——「ライプチヒ」

伯林——「ハンノーヴァー」——和蘭國境(「アムステルダム」方向)別ニ「ゲルン」ハ分岐シ和蘭國境(「ブラッセル」方向)

「ハンノーヴァー」——「ドルトムンド」——「ゲルン」

「ゲルン」——「フランクフルト、アム、マイン」

「ハンノーヴァー」——「フェーマルン」(「ロベンハーゲン」方向)

第四 北米合衆國

一、定期航空ニ關スル保護獎勵

(一) 商業航空法ニ基ク保護獎勵

一九二六年五月「ビンガム、パーカー」案米國上下兩院ヲ通過シ「一九二六年商業航空法」トシテ施行セラルルニ至リ米國ノ民間航空政策ノ基礎ハ茲ニ始メテ確立セラレタルカノ感アリ即チ同法ニ依リ米國民間航空事業ハ商務省ノ主管事項トナリ商務大臣カ民間航空ノ保護、助長、取締等ニ付廣汎ナル權限ヲ有シテ事ニ當ルコトトナリ從來其ノ取締ハ素ヨリ其ノ助長保護等ニ關シ統一スル所ナカリシ米國民間航空事業ハ茲ニ始メテ政府ノ直接ノ支配下ニ置カレ同時ニ其ノ發達ノ基礎確保セラルルニ至リタルモノト謂フコトヲ得ヘシ

一般ニ民間航空事業ノ保護獎勵等ニ關シ米國從來ノ航空政策ハ歐洲諸國政府ノ夫ニ比シ著シク自由主義的傾向ヲ有シタリ例之政府カ直接民間航空事業者ノ爲補助金ヲ下附シ或ハ其ノ定期航空ニ付補助金ヲ交付スルカ如キ事例ハ米國民間航空界ニ於テ之ヲ發見スルコトヲ得ス

蓋シ建國以來ノ傳統的精神タル獨立自由ノ思想ハ其ノ豐富ナル富力、特殊ノ政治的及經濟的組織、地理的諸條件等ト相俟テ直接ノ補助ヲ好マス却テ間接ノ補助即チ飛行場ノ設置、航空標識ノ建設、氣象通報及通信連絡ノ完備等ニ付政府ノ助力ヲ仰クヲ悅フノ風ヲ馴致シタルモノナルヘシ

從テ一九二六年商業航空法モ右ニ記述シタル間接的補助ヲ以テ民間航空事業保護策ノ根本方針トシ其ノ主義ノ下ニ諸種ノ保護的規定ヲ設ケ居レリ

然ルニ民間航空ノ發達ハ定期航空線路網ノ充實ニ極ルモノト謂フコトヲ得ヘク而シテ民間航空ノ保護獎勵ハ定期航空ニ重點ヲ置クヘキコト明白ナルカ故ニ一九二六年商業航空法モ亦此ノ點ニ着眼シテ諸種ノ保護規定ヲ設ケタリ

一九二六年商業航空法ニ依レハ左ノ規定有リテ一般民間航空ト共ニ定期航空ニ間接ノ保護ヲ與ヘ居レリ

- (1) 商務大臣ハ商業航空發達ノ可能性ニ關スル研究、氣象事務ニ關スル勸告、事故原因ノ調査、記録及公表、外國政府トノ航空情報ノ交換並飛行場建設獎勵ニ依リ民間航空ヲ獎勵スルノ一般の權限ヲ賦與セラル
 - (2) 議會ノ承認ヲ經タル豫算ノ範圍内ニ於テノ燈火及信號設備ノ建設、運用及維持、航空路地圖ノ刊行、中央政府ノ管理スル飛行場其ノ他ノ航空設備ハ當該設備管轄官廳長官ノ命令ニ基キ之ヲ一般ニ公開ス
 - (3) 商務大臣ハ如何ナル航空路ト雖之カ獨占的使用權ヲ許與スルコトヲ得ス
 - (4) 外國人所有ノ航空機ハ國內商業航空ヲ爲スコトヲ得ス
 - (5) 氣象局ハ議會ノ承認ヲ經タル豫算ノ範圍内ニ於テ航空線路ノ航空ノ爲必要ナル氣象報告ヲ爲スコトヲ要ス
- 今左ニ商務省航空局ノ航空路開設狀況及定期航空輸送事業ノ發達情態ヲ一瞥セム
- 一九三二年六月三十日ニ終ル年度ニ於ケル航空路計畫ニ基キ開設セラレタル大陸橫斷夜間照明航空路ハ(一)紐育―市俄古―桑港線(二)紐育―「カンサス・シティー」―羅府線(三)紐育―「アトランタ」―「サン・ディエゴ」ノ三線ナリキ右ノ外夜間航空路ハ大西洋及太平洋ノ兩岸地方並中央部ニ開設セラレ又其ノ他多數ノ培養線設定セラレタリ此等ノ諸線ハ概ネ無線方向探知局、氣象通報局及測候所ノ設備ヲ有ス
- 議會ハ一九三二年度ニ對シテ二、〇〇〇哩ノ夜間照明航空路ノ建設ヲ承認シタルヲ以テ既ニ建設セラレタルモノ及現ニ建設中ノモノヲ加ヘテ全線ノ延長ハ一九、五〇〇哩ニ達スルニ至レリ然レトモ一九三三年度ニ於テハ財政緊縮政策ニ基キ新線ノ工事全然行ハレサルコトナレリ
- 商務省ニ依リ建設セラレ且維持セラレ居ル航空路ハ重要ナル左ノ特徴ヲ有ス即チ
- (イ) 夜間照明燈
 - (ロ) 中間着陸場
 - (ハ) 航空中ノ航空機ニ氣象通報及航空ノ安全ニ關係アル特別情報ヲ傳送スル航空無線電信局

- (ニ) 航空機カ安全ニ飛行スルコトヲ得ル爲無線電波ヲ放送スル「ラディオ・ビーコン」
 - (ホ) 重要ナル中間着陸場ヲ示ス爲ノ「マーカー・ビーコン」
 - (ヘ) 氣象通報ノ蒐集及傳送ノ爲ノ全國的印字電信機組織網
- 政府ハ今ヤ航空路ノ建設及維持ニ就キ六ヶ年ノ經驗ヲ積ミ設備ノ改善ハ操縦士ニ容易ナル航空ヲ供與シ又操縦士ノ技術ノ發達ハ旅客ニ不安ナク空中旅行ノ快ヲ樂マシムルコトナレリ
- 合衆國ニ於ケル飛行場及中間着陸場ノ總數ハ一九三一年六月末現在ノ一、八七〇ヨリ一九三二年六月末現在ノ二、〇三七ニ増加シタリ其ノ内商務省飛行場ハ六〇一ヨリ六一〇ニ増加シタレトモ市立飛行場ハ五七七ヨリ五四三ニ減少シタリ
- 又定期航空輸送事業ノ發達ニ付テ見ルニ一般の經濟界ノ不況ニモ拘ハラズ定期航空ニ於テ飛行距離及輸送量共ニ増加シ定期航空飛行距離ハ一九三〇年ノ三六、九四五、二〇三哩ハ一九三一年ニ四七、三八五、九八七哩トナリ又一九三〇年ノ輸送旅客數ハ四一七、五〇五人ナリシカ一九三一年ニハ五二二、三四五人トナリ輸送郵便物量ハ八、五一三、六七五封度ヨリ九、六二三、二一一封度ニ、輸送貨物量ハ四六八、五七一箇ヨリ一、一五一、三四八箇ニ増加シタリ旅客一死者當リノ飛行哩數ハ一九三〇年ノ四、三三二、八〇二人哩ヨリ一九三一年ノ四、七七〇、八七六人哩トナレリ
- 曆年度一九三二年ノ前半期ノ報告書ニ依レハ其ノ六ヶ月間ニ於テ二四八、九五四人ノ旅客及七二二、六三八封度ノ貨物輸送セラレ二四、六六八、四一四哩飛行セラレタリ又輸送郵便物量ハ一九三一年ノ當該期ノ四、五八九、七〇七封度ニ比シテ四、三四二、五〇七封度トナレリ

(二) 航空郵便法ニ基ク保護獎勵

定期航空ノ保護獎勵ニ關シテニ注意スヘキハ一九二五年二月二日ノ「ケリー」法(航空郵便法)ノ制定ナリトス即チ本法ニ基キ

「郵政長官ハ一切ノ個人商社又ハ法人トノ間ニ航空郵便ヨリ生スル収入ノ五分ノ四ヲ超ヘサル割合ヲ以テ其ノ指定スル地點間ニ於ケル航空郵便物ノ航空機ニ依ル遞送契約ヲ締結シ及第一種郵便物ヨリ生スル収入ノ五分ノ四ヲ超ヘサル割合ヲ以テ航空郵便以外ノ第一種郵便物ノ航空機ニ依ル遞送契約ヲ締結スルノ機限ヲ有スル」

コトトナリタルニ依リ全國ニ亙ル請負航空郵便線路ノ開設ヲ見ルニ至リタリ殊ニ從來ヨリ存続シタル若干ノ政府直營航空郵便線路ハ一九二七年九月一日以降全部之ヲ民間ノ經營ニ移シタル事實ハ政府ノ直營カ民間航空事業ヲ壓迫スルノ結果ヲ招來シ民間定期航空保護ノ精神ニ背馳スルニ至ルヲ惧レタルノ事情ヲ窺知セシムルモノニシテ政府ノ郵便物空中輸送カ總テ民間定期航空事業ニ委託セラレタル結果ハ之等民間定期航空ノ經營者ニ採算上ノ一保障ヲ供與スルコトトナリタリ

尙「ケリー」法ニ於テハ遞送契約報酬ノ計算標準ヲ封度ニ置キタルモ一九三〇年四月ノ「マクナリー、ウォーターズ」改正法ニ於テハ之ヲ次ノ如ク重量容積標準ニ改メ報酬支拂ノ公平ト其ノ金額ノ増加ヲ計リタリ即チ

「郵政長官ハ其ノ最低有責入札者ニ指定スルコトアルヘキ地點間ニ於テ容積一立方呎ヲ航空郵便物九封度ニ等シキモノト算定シテ一定重量容積ニ對シ毎哩一、二五弗ヲ超ヘサル一定料金率ニ依リ航空機ニ依ル航空郵便物輸送ノ契約ヲ締結スルノ權限ヲ有ス但シ指定地點間ニ於ケル輸送航空郵便物ニシテ每飛行二五立方呎(二二五封度)ヲ超ヘサル場合ニ在リテハ郵政長官ハ二五〇哩ヲ下ラサル距離並入札公告前六ヶ月ヲ下ラサル期間ニ亙リ定期毎日運航ヲ經營シタル最低有責入札者ニ對シ重量容積二五立方呎(二二五封度)ニ付每哩四〇仙ヲ超エサル料金率ヲ以テ輸送契約ヲ締結スルコトヲ得」

又「マクナリー、ウォーターズ」法ニ於テハ

「郵政長官ハ一切ノ航空郵便契約ノ破棄ニ際シ其ノ公益上ノ必要ヲ認メタルトキハ二ケ年ヲ下ラサル期間ニ亙リ航空郵便線路ヲ完全ニ經營シ來リタル一切ノ請負人又ハ其ノ下請負人ニ對シ該契約ニ基キ事業開始セラレタル日ヨリ

以後十ケ年ヲ超エサル期間ニ亙ル航空路免狀ヲ舊契約ノ代リニ發給スルコトヲ得右免狀ノ所持者ハ郵政長官カ郵便業務ノ必要上並郵便遞送ニ依ル飛行技術及旅客輸送ノ發展助長上定ムヘキ一切ノ規定及命令ヲ遵守スル限リ免狀又ハ其ノ修正免狀ニ指定セル航空線路上ニ於テ郵政長官カ隨時但シ少クトモ一年一回定ムヘキ報酬率ニ依リ航空郵便物ヲ遞送スルノ權利ヲ有ス但シ該料金率ハ每哩一、二五弗ヲ超ユルコトヲ得ス」

ト規定シ以テ前記報酬金額計算標準ノ改正ト共ニ航空輸送業者ノ旅客運送ノ保護獎勵ヲ計リタリ

一九二五年二月二日ノ制定ニ係ル航空郵便法ニ基キ郵便長官ト私人トノ間ニ締結セラレタル航空郵便請負契約ニ依リ形成セラレタル米國航空郵便線路網ニ關スル一覽表ヲ掲クレハ左ノ如シ

(一) 一九三二年請負國內航空郵便線路一覽表

| 請負者、線路及番號 | 距離 | 豫定飛行哩數 | 實施飛行哩數 | 輸送郵便物量 | 請負ニ對スル報酬總額 |
|-----------------------------------|------|----------|----------|-----------|------------|
| (一) アメリカン・エーアウェイズ會社 | | | | | |
| (1) ボストン—紐育 | 二二哩 | 二九四三〇五哩 | 二五四、六七哩 | 一一〇、一四四封度 | 一三六、二八四七三 |
| (2) 市 俄 古—メ—ン—フ—イ—ス | 五三三 | 五七二、〇〇一 | 五三〇、九六八 | 五四、六六四 | 二九五、二〇五〇〇 |
| (20) 紐 育—フ—ォ—ト—ウ—ォ—ス | 一七九三 | 二、三八、九八一 | 一、七四、四九三 | 三三、七六〇 | 九六三、五七五、三五 |
| (21) ダ ラ ス—ガ—ル—ヴ—ェ—ス—ト—ン | 三三三 | 三五〇、四〇〇 | 三三七、七四一 | 三三、一七三 | 一一六、九三四六四 |
| (22) ダ ラ ス—プ—ラ—ウ—ン—ス—ヴ—ィ—ル | 五五二 | 四〇九、九五四 | 三九七、五九八 | 七六、六六四 | 二六四、八八六七 |
| (23) ア—ト—ラ—ン—タ—ー—ニ—ュー—ヨ—ル—レ—ア—ン—ス | 四三〇 | 三二九、九八〇 | 三〇〇、一三五 | 八三、三四七 | 一八八、八四一四三 |
| (24) 市 俄 古—シ—ン—シ—ナ—チ | 二七四 | 四〇六、四三五 | 三六三、五二〇 | 五九、八五四 | 一八三、三三七七 |

| | | | | | |
|--------------------------|--------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| (29) ニュー・オルレアンスーヒューストン | 三七 | 二四三九六四 | 二四九五六 | 四四八三七 | 一〇九六〇・三六 |
| (30) オマハーエヴァンズヴィル | 一〇三八 | 一三五八九三 | 一、二四八、二五 | 二四八、二八〇 | 六五四〇五・五九 |
| (33) アトランターロー | 三三五七 | 二九四二七九六 | 二八〇〇、五七六 | 三三一、五三五 | 一、七八二、二四二六 |
| (二) イースターン・エア・トランスポート | | | | | |
| (19) 紐 | 育一マイアミ | 二、二四一 | 三、七七九〇一 | 三、四九〇、一六一 | 八二六、五五五 |
| (三) ナショナル・パークス・エアウェイズ | | | | | |
| (26) ソールト・レイク・グレイト・フォールス | 五〇九 | 七四五、五四 | 七二七八一七 | 五〇六四 | 三、四八〇、二五八七 |
| (四) ノースウエスト・エアウェイズ | | | | | |
| (9) 市 俄 古ーベムピナ | 一、六三〇 | 一、六〇〇、三七七 | 一、五四九九七 | 二四一、五九九 | 八四三、二七〇三 |
| (五) ベンシルヴァニア・エアラインズ | | | | | |
| (11) クリーヴランドーワシントン | 三三六 | 八〇五、五四六 | 六四八、五五七 | 一、三四六、六〇 | 二、六〇八、五三七〇 |
| (六) トランスアメリカン・エアラインズ | | | | | |
| (27) ベイ・シティー・ボンティアック | 一、三八四 | 一、五四一、八二六 | 一、三八五、三八五 | 一、五〇八、〇二 | 五、九五、六三七、五五 |
| (七) トランスコンティネンタル・アンド・ウエ | | | | | |
| スターン・エア・アソシエーション | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------------|---------|-------------|-------------|-----------|----------------|-----------|------------|
| (34) 紐 | 育一羅 | 府 | 三、三九九 | 四、七〇六、六六七 | 四、五一一、三三七 | 一、二九九、六一七 | 三、六〇一、〇三九九 |
| (八) ウェスタン・エア・エクスプレス | | | | | | | |
| (4) ソールト・レイク・シティー・サン・ディエゴ | 七八二 | 七五四、五三三 | 七四二、三九九 | 七五、三三九 | 三七八、二二二〇 | | |
| (12) シェイエン・マリ | 七四 | 六、四九〇、八 | 五、九四〇、三九 | 一一二、七三七 | 三〇三、五九五、一 | | |
| (33) エル・パソアルブケル | 三三三 | 一、六三、七三六 | 一、五八、三三〇 | 九、二九八 | 九九、九五五、一七 | | |
| (九) ユナイテッド・エア・ラインズ | | | | | | | |
| (3) 市 俄 古ーダラス | 一、〇四八 | 一、八六七、三三四 | 一、七五七、三五九 | 四、五八、一六〇 | 九九九、二六、一九 | | |
| (5) ソールト・レイク・シティー・シアトル | 一、〇一七 | 一、二八五、三三八 | 一、二二六、一八五 | 二、四九、二七三 | 七三八、一九二八〇 | | |
| (8) シアトル・サン・ディエゴ | 一、三三八 | 一、七九三、八九三 | 一、七五一、六一六 | 四〇〇、七〇四 | 九五六、〇二七〇一 | | |
| (17) 紐 育一市 俄 古 | 七三六 | 二、二八四、九八三 | 二、二四七、五三八 | 一、二四八、三〇八 | 一、二二九、九〇二、四四五 | | |
| (18) 市 俄 古ー桑港 | 二、三八六 | 四、四五六、九三〇 | 四、五〇四、二八五 | 一、〇八〇、六四〇 | 三、〇三三、二〇九八五 | | |
| (六) ユナイテッド・ステイツ・エアウェイズ | | | | | | | |
| (30) デンヴァー・カンサス・シティ | 五四四 | 四、六五一、九六 | 四、四七、三九八 | 一、八六八八 | 一、四五四、四六、二〇 | | |
| 合 計 | 二、六八、九三 | 三、五八、四三、八五九 | 三、三三、七三、九一三 | 七、三三、三三〇 | 一九、二六、七、四二、二一八 | | |

(二) 一九三二年請負國外航空郵便線路一覽表

| 線路及番號 | 距離 | 經營者 |
|---------------------------------|---------|-------------------------|
| (1) 紐 育—オルバニー—モントリオール | 三三四哩 | カナディアン・コロニアル・エーアウエイズ會社 |
| (2) シアトル—ヴィクトリア | 七四 | シアトル・ヴィクトリア・エーア・メール會社 |
| (3) ニュー・オルレアンス—パイロット・タウン | 七五 | ハンター・アンド・ジョンソン會社 |
| (4) マイアミ—ハバ | 三三九 | |
| (5) (A) マイアミ—中米—クリストバル | 二、三五一 | |
| (B) マイアミ—ミランキラ—クリストバル | 一、〇一一 | パン・アメリカン・エーアウエイズ會社 |
| (6) マイアミ—ポート・オブ・スペイン—パラマリボ | 三、五八五 | |
| (7) マイアミ—ミナソ | 一八八 | |
| (8) ブラウンスヴィル—メキシコ—シティー—サン・サルバドル | 一、四六五 | |
| (9) クリストバル—リマ—モンテビデオ | 四、四一五 | パン・アメリカン・グレース・エーアウエイズ會社 |
| (10) パラマリボ—ナタール—ブエノス・アイレス | 四、八四〇・五 | |
| (12) バンゴ—ハリファックス | 二八一 | パン・アメリカン・エーアウエイズ會社 |

二、航空工業ニ關スル保護獎勵

定期航空ニ對スルト同様米國政府ハ航空工業ニ付テモ亦補助金ヲ交付スルカ如キ直接ノ保護獎勵策ヲ採ルコトナク唯陸海軍ノ空軍ヨリ從來國內ノ民間航空機製作業者ニ對シテ莫大ナル額ノ航空機及發動機ノ製作ヲ注文シ來レリ例之一九三二年ニ於テハ陸軍側ハ飛行機四二五機、發動機九三二基、海軍側ハ飛行機二八二機、發動機四四〇基ノ注文ヲ發シタリ如斯クニシテ陸海軍ハ米國民間航空機製作業者ニトリテハ民間航空會社ニモ劣ラサル重要ナル得意先ニシテ此ノ事實ハ政府カ米國航空工業界ヲ間接ニ保護シ居ルモノト看做スコトヲ得ヘシ蓋シ大量生産ハ生産費ノ減少ヲ來サシムルノミナラス製作業ノ經營自體ヲ確保スルモノナレハナリ

試ミニ最近五ケ年間ニ於ケル米國民間航空機製作業者ノ製作高ヲ具體的數字ニ就イテ見レハ左ノ如シ

| 年次 | 飛行機 | | 發動機 | |
|-------|-------|------------|-------|------------|
| | 數 | 金額 | 數 | 金額 |
| 一九二八年 | 三、五四二 | 一七、一九四、二九八 | 六三三 | 九七九、六〇〇 |
| 一九二九年 | 五、三三七 | 三三、六二四、七五六 | 五、五二七 | 一七、八九五、三〇〇 |
| 一九三〇年 | 一、九三七 | 一〇、七四六、〇四二 | 一、九二五 | 六、二五五、四九三 |
| 一九三一年 | 一、五八二 | 六、六五五、七三八 | 一、九七六 | 四、一四八、一三二 |
| 一九三二年 | 五、四九 | 二、三三七、八九九 | 八二二 | 二、八九八、三七二 |

米國航空機材ノ優秀性ハ海外ニ於テモ亦絶大ノ名聲ヲ博シ世界各國ニ其ノ販路ヲ開拓シ居レリ 今左ニ最近五ケ年間ノ航空機材輸出統計表ヲ掲ケム

| 年次別 | 飛行機 | | 發動機 | | 部分品 | 總額 |
|-------|-----|---------------------|------|----------------------|-----------------------|----------------------|
| | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 | | |
| 一九二八年 | 一六三 | 一七五九六五 _冊 | 一七九 | 六六四、八三六 _冊 | 一、三四〇、三四 _冊 | 三、六四七、三 _冊 |
| 一九二九年 | 三五四 | 五、七四、四八〇 | 三三一 | 一、三、七、六、九七 | 二、三、五、三、〇八 | 九、〇三、六、五 |
| 一九三〇年 | 三三一 | 四、八、九、六、六九 | 三三七 | 一、六、五、〇、七六 | 二、三、五、一、六、五二 | 八、八〇、六、三、五 |
| 一九三一年 | 一四〇 | 一、八、二、八、三、七 | 三八 | 一、四、七、四、八、五 | 一、五、三、一、八、三八 | 四、八〇、九、一、四〇 |
| 一九三二年 | 二七三 | 四、五、九、七、九 | 二一七五 | 一、四、六、三、二、九六 | 一、七〇、八、三、九六 | 七、七、一〇、三、五九 |

三、航空科學研究團體

(一) 國民航空諮問委員會 (National Advisory Committee for Aeronautics.) (NACA)

設置目的

航空ニ關スル諸問題ノ科學的研究ヲ指導監督シ之カ實際的解決及試験的ニ檢討スヘキ諸問題ノ決定、其ノ研究及之カ實際上ノ應用ヲ目的トス

組織

大統領ノ任命スル委員十五名ヨリ成ル其ノ内譯左ノ如シ
 陸軍省 二名、海軍省 二名、「スミスソニアン・インスティテューション」、氣象局、規畫局ヨリ各一名及其ノ他ノ航空ニ關スル専門家八名

設備

「ラングレイ・フィールド」ニ完備セル航空實驗所ヲ有シ直接航空ニ關スル科學的研究及實驗ヲ爲シ其ノ結果ヲ年報又ハ隨時刊行物ヲ以テ公表ス

(二) 航空協調委員會

設置目的

各省ニ分屬セル航空官憲間ニ於テ共同政策ニ關スル問題ヲ協議スルヲ以テ目的トス

組織

陸軍省航空次官、海軍省航空次官及商務省航空次官ヲ以テ組織ス

(三) 民間航空共同調查委員會

設置目的

航空界ノ經濟的状況ヲ全世界ニ亘リテ總括的ニ研究シ併セテ米國ニ於ケル商業航空ノ全國的發展ノ爲ニ缺クヘカラサル方策ヲ建議ス

組織

商務省及亞米利加工學評議會トノ共同委員會ニシテ委員長ハ商務次官、副委員長ハ亞米利加工學評議會々長ニシテ其ノ他ノ委員ハ官吏、大學教授等ヨリ成ル

(四) 航空線路設定合同調查委員會

設置目的

國內航空線路ノ開設ニ關スル研究ヲナス

組織

六名ノ委員即チ商務省ヨリ三名、郵政廳ヨリ三名選任セララル

14.4
996



終